

授 業 概 要

科目名	情報機器入門		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	成富 慶子	
学科 コース	こども保育科昼間コース		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数 15 時間
【授業を通じての到達目標】									
Word操作を中心に、Officeの基礎を学修し保育士として必要なスキルを保育現場の即戦力となるようスキルを実技形式で習得する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのもも記載する)									
マイクロソフトの公式トレーナー資格有する講師が、社会人OA研修、新入社員研修、大手企業OA講師を活かした、実践的・実務的即戦力になる講義を実技形式で実施する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
FOM出版 よくわかる Microsoft Word 2019 基礎					e-ryping のアプリを使用し、入力練習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 受講者の確認・講義概要 学内コンピュータ使用の注意と使用方法、ログイン、ログオフ、パスワード変更、課題提出方法				9	【授業単元】			
	【到達目標】 学内PCにログインし、PC室の利用や授業内の課題DL、提出ができる					【到達目標】			
2	【授業単元】 Windowsの基礎知識、Wordの基礎知識 Wordの概要、言語バーの設定 効率的な入力方法				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ファンクションキーを使用した入力、ローマ字入力を効率的に入力できる					【到達目標】			
3	【授業単元】 Wordの文書作成1 Wordの文字の範囲選択、文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾、文書の保存・印刷				11	【授業単元】			
	【到達目標】 実際にWordを使用した文書作成ができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 Wordの文書作成2 ページ設定、文章入力、範囲選択、文字の削除・挿入・コピー・移動・配置・装飾、文書の保存・印刷				12	【授業単元】			
	【到達目標】 さらに発展的なWord文書作成を理解することができる					【到達目標】			
5	【授業単元】 Word文書作成3 表作成、表の範囲選択、表のレイアウト変更、表の書式設定、表にスタイルを適用、段落罫線の設定				13	【授業単元】			
	【到達目標】 Wordの表作成が理解し、作成することができる					【到達目標】			
6	【授業単元】 Word文書作成4 表現力をアップする機能、ワードアートの挿入、図の挿入、ページ罫線の設定、テーマの設定、SmartArtの挿入、テキストボックスの挿入				14	【授業単元】			
	【到達目標】 表現力をアップし、視覚的に訴える文書作成ができる					【到達目標】			
7	【授業単元】 教科書総合問題				15	【授業単元】			
	【到達目標】 1-6回の学習をふりかえり総合問題で習熟度を確認しステップアップをはかり、第8回の学期末試験にむけて苦手を克服する					【到達目標】			
8	【授業単元】 学期末試験				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 単元の総まとめ問題を作成し、提出できる				<ul style="list-style-type: none"> ・試験は第8回にPCを使用した実技試験で実施する ・毎回の小テストは各回10点満点とし、合計(70点満点)＋入力試験＋中間学期末試験で評価する 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書を必ず忘れないようにしてください。 タイピングが苦手な人はタイピング練習をしてください。									

授 業 概 要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者にとって重要な技術である「聞く」「話す」「読む」「書く」大切さを認識し、言葉で表現することの基本と活用について理解し、実践する ・社会人として、保育学生として身に付けたいマナーについて確認し、実践的な能力を高める 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育マナーと言葉/わかば社					・授業における課題や書類の作成に取り組む				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】	基本的なマナー			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場で気をつけたい所作や声の大きさ、対人関係における言葉表現を習得し、実践することができる。 ・人の話に耳を傾け、要点を短いキーワードでメモすることができる。 							
2	【授業単元】	書く			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方、座り方、文字を正しく書くための所作を理解し、正しい書き方について実践することができる。 							
3	【授業単元】	保育用語の読み書き			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者がよく使う用語を音読することができる。 ・基本的な保育用語を丁寧に書くことができる。 							
4	【授業単元】	話し言葉のトレーニング			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事例をもとに、説明の方法について考察し、述べるができる。 							
5	【授業単元】	実習日誌の書き方			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌の記録法とその意義について理解することができる。 							
6	【授業単元】	クラス便り			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と保護者の情報交換の大切さを理解し、基礎的な言語能力を身につける。 ・楽しんで書くことを実践することができる。 							
7	【授業単元】	自己紹介書			【授業単元】				
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を相手に伝えることの大切さを知り、文章化することができる。 							
8	【授業単元】	御礼状(定期試験)			【成績評価の方法と基準】	講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの文章表現の単元を活用し、文書を作成することができる。 ・封書の書き方等の所作を習得し、実践することができる。 							
【履修に当たっての心構え・留意点】									
書きやすいペン、鉛筆、消しゴムを毎回持参すること。 授業で学ぶ様々な保育用語の知識を増やし、保育の専門性を高める。									

授 業 概 要

科目名	キャリア教育教育プログラムⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	秋本 浩孝		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての仕事に対しての心構えや意欲をもつことができる。 ・保育者に必要な力を理解し、実習や就職活動に役立てることができる。 									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な業界にて社会人経験豊富な担任業務に従事し、保育者に必要な力を養うための授業を行う。 ・保育に携わっていた教員が現場の実践を交えながら保育者に必要な力を養うための授業を行う。 ・セルフワークやグループワーク・リフレクションを行いながら社会人として必要とされる社会人基礎力を養う。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・Wi-Fi接続可能なデバイスを持参すること					希望する幼稚園・保育園の実習先を調べ、実習の準備を進める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (導入研修1日目) 学則・学習について 学生生活の手引き 学内オリエンテーリング これから一緒に学ぶ仲間を知る 【到達目標】 学校の利用方法やルールが分かり、安心して学校生活を送れるようになる				9	【授業単元】 レクリエーション準備② 【到達目標】 役割を決め、計画を立てることができる 各役割に分かれてレクリエーション準備を行う			
2	【授業単元】 (導入研修2日目) 学校のルール 校舎使用方法について これから一緒に学ぶ仲間を知る 【到達目標】 挨拶掃除の仕方を確認し、自身が学ぶ環境を整える。 お互いを理解する。尊重、受容。様々な地域、背景をもったクラスメイトや社会に対するの気づきを得る。				10	【授業単元】 資格の価値 保育園・幼稚園、施設の違いを理解する 【到達目標】 保育園・幼稚園・福祉の共通点や相違点、特徴を知る			
3	【授業単元】 (導入研修3日目) 授業におけるイメージを持つ・ 3日間の振り返り→入学式へ・ 【到達目標】 Teamsの使い方確認、座学、実技の授業について、ITリテラシー 本日まででの気づき。 目標、目的の再確認。 入学式の詳細（意味、価値、スタート）				11	【授業単元】 実習について④ 【到達目標】 実習・就職について準備をする			
4	【授業単元】 入学式振り返り クラスみんなまで達成 【到達目標】 キャリア教育プログラムの進め方や内容を理解する 2年後を想像し、卒業式を迎えた自分へ手紙を書くことで主体的に学校生活に臨む				12	【授業単元】 実習・就職について⑤ 【到達目標】 実習・就職について準備をする			
5	【授業単元】 実習について① 【到達目標】 実習にむけての準備をする 実習生紹介書、実習先の選び方など				13	【授業単元】 レクリエーション当日 【到達目標】 イベントに対する運営、意識、協調性などの大切さを実感する			
6	【授業単元】 実習について② 【到達目標】 実習にむけての準備をする 実習生紹介書確認、書類準備など				14	【授業単元】 レクリエーション振り返り 夏休みの課題 【到達目標】 イベントに対する運営、意識、協調性の再認識をはかり、 次に繋げる 夏休みの過ごし方や、課題について理解をする。			
7	【授業単元】 実習について③ 【到達目標】 実習にむけての準備をする 実習生紹介書確認、書類準備など				15	【授業単元】 【定期試験】 前期の学校生活の振り返り 授業アンケートの実施 【到達目標】 前期の学校生活（レクリエーション等）を振り返り学んだことを具体的に言語化し記入する			
8	【授業単元】 レクリエーション準備① 【到達目標】 役割を決め、計画を立てることができる 各役割に分かれてレクリエーション準備を行う				【成績評価の方法と基準】 【小テスト】40点 毎回の小テストは各回5点満点とする。（10回目は10点満点）とし（合計70点） 夏休みの課題提出で10点とし、合計80点としたものを2で割った点数40点満点として評価する。 【定期試験】60点 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業には無断欠席や遅刻等がないようにして臨む。 クラスメイトと協力して学習に参加し、良好な授業環境を整える。									

授 業 概 要

科目名	キャリア教育教育プログラム I	必修 選択の別	必修	開講 区分 授業の 方法	後期	担当 教員	秋本 浩孝		
学科	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての仕事に対しての心構えや意欲をもつことができる。主体的に行動できるようになる。 ・保育者に必要な力を理解し、実習や就職活動に役立てることができる。 ・保育者への憧れや2年次への期待を高める。 									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な業界にて社会人経験豊富な担任業務に従事し、保育者に必要な力を養うための授業を行う。 ・保育者に携わっていた教員が現場の実践を交えながら保育者に必要な力を養うための授業を行う。 ・セルフワークやグループワーク・リフレクションを行いながら社会人として必要とされる社会人基礎力を養う。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・Wi-Fi接続可能なデバイスを持参すること					希望する幼稚園・保育園の実習先を調べ、実習の準備を進める。自己分析や園情報収集を行い希望を定める。進路の選択の一つとして公務員対策に参加する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 夏休みの課題提出、今後のスケジュールについて グループワーク①				9	【授業単元】 学園祭振り返り			
	【到達目標】 今後のスケジュールについて理解し提出物や、やるべきことを理解することができる。 グループワークに協働して取り組む。					【到達目標】 行事について、様々な角度から振り返る。 個人・クラス、お客様の満足度。もてなす側のふるまい。 保育者としての準備をする。			
2	【授業単元】 実習について① グループワーク②				10	【授業単元】 就職活動に向けて① キャリアセンターの先生より			
	【到達目標】 自己紹介の目的をきちんと理解することができる。 共に考え合っ、集団の中で自分がどう動くよいか考えられるようになり行動できる。					【到達目標】 就職のルールや流れについて理解することができる。 自己分析を行い、自らを客観的に把握することで自分の強み履歴書に書くことができる。			
3	【授業単元】 実習について② 学園祭について・学園祭準備①				11	【授業単元】 就職活動に向けて② 業界からの方より			
	【到達目標】 学園祭について聞き、行事に向かってクラスメイトと協力することができる。					【到達目標】 保育業界はどのような業界なのか関心を持ち、しっかりと理解できる。 業界の方の話を聞いて将来について考え、行動につなげる。			
4	【授業単元】 学園祭の準備②				12	【授業単元】 就職活動、実習に向けて③ 卒業生より			
	【到達目標】 クラスメイトと学園祭について意見を出し合い、協力して進めていく。					【到達目標】 卒業生から現場の話を聞くことにより、就職・実習のイメージをつける			
5	【授業単元】 学園祭の準備③				13	【授業単元】 実習について③			
	【到達目標】 クラスメイトと学園祭について意見を出し合い、協力して進めていく。					【到達目標】 実習に向けての準備。身構え・気構え・心構え			
6	【授業単元】 学園祭準備④				14	【授業単元】 実習について④			
	【到達目標】 クラスメイトと学園祭について意見を出し合い、協力して進めていく。					【到達目標】 実習に向けての準備。身構え・気構え・心構え			
7	【授業単元】 学園祭準備⑤				15	【授業単元】 定期試験 2年次に向けて・授業アンケートの実施			
	【到達目標】 クラスメイトと学園祭について意見を出し合い、協力して進めていく。					【到達目標】 2年次の4月以降のスケジュールを確認し、進級する心構えを持つことができる 1年間の学校生活を振り返り、2年次の目標を立てることができる			
8	【授業単元】 学園祭前日準備				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 クラスメイトと学園祭について意見を出し合い、協力して進めていく。				【小テスト】40点 小テストは5点満点とする。（合計30点） 冬休みの課題提出で10点とする。 【定期試験】60点 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業には無断欠席や遅刻等がないようにして臨む。 クラスメイトと協力して学習に参加し、良好な授業環境を整える。									

授 業 概 要

科目名	日本国憲法	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期集中	担当 教員	辻本 衣佐		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
日本国憲法を中心に法の基礎を理解し、子どもと家族をめぐる諸問題について法的な対応ができるようにする。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学の法学部で法律を教えている教員が、保育の現場に必要な法律の基礎知識を身に付けるための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
日本国憲法(近大テキスト)、プリント					法律問題についてのニュースに関心を持つ。裁判傍聴に行く。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 法とは何かを理解し、法を学ぶ意義を考える。				9	【授業単元】 刑罰と犯罪者の処遇について理解する。			
	【到達目標】 六法(憲法・民法・商法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法)について説明できるようにする。					【到達目標】 犯罪者の社会復帰に向けた施策を説明できるようにする。			
2	【授業単元】 年齢と権利・責任について理解したうえで、18歳成人年齢について考える。				10	【授業単元】 契約のしくみと法制度を理解する。			
	【到達目標】 成人するということを権利と義務から説明できるようにする。					【到達目標】 契約をする場合の注意点を説明できるようにする。			
3	【授業単元】 婚姻制度(結婚・離婚)の現状と問題点について理解する。				11	【授業単元】 消費者を守るための法制度について理解する。			
	【到達目標】 結婚の要件と効果について説明できるようにする。					【到達目標】 悪質商法に対処できるようにする。			
4	【授業単元】 裁判のしくみと裁判員制度について理解する。				12	【授業単元】 労働者を守るための法制度について理解する。			
	【到達目標】 裁判員に選任された場合の心構えを身に付ける。					【到達目標】 労働者の権利について説明できるようにする。			
5	【授業単元】 堕胎、児童虐待、犯罪被害など、被害者としての子どもの問題について理解する。				13	【授業単元】 ハラスメントについて現状と解決法を理解する。			
	【到達目標】 子どもをめぐるそれぞれの問題に、どのような法律が適用されるのかを説明できるようにする。					【到達目標】 セクハラ、パワハラに対処できるようにする。			
6	【授業単元】 少年非行の現状と処遇など、加害者としての子どもの問題について理解する。				14	【授業単元】 自然環境を保護するための法制度について理解する。			
	【到達目標】 少年法はどのような法律なのかを説明できるようにする。					【到達目標】 ゴミの分別や容器包装リサイクルのしくみを法と関連付けて説明できるようにする。			
7	【授業単元】 ストリートチルドレン、児童労働、子ども兵士など、世界の子どもの人権侵害について理解する。				15	【授業単元】 私たちの生活と法とのかかわりについてまとめる。			
	【到達目標】 子どもの問題を扱う国際的な機関の役割を説明できるようにする。					【到達目標】 法律用語を正しく使って、身近な法律問題を説明できるようにする。			
8	【授業単元】 子どもの人権について、憲法や他の法律でどのように保障されているのかを理解する。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 子ども権利条約について説明できるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
私たちは、社会のルールである「法」とかかわらずに、生きて行くことはできません。よく耳にする法律用語が、本来の意味や使い方と異なっていることがありますので、その点に注意して下さい。									

授 業 概 要

科目名	英会話	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	海老原孝一		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
○外国語学習を通して、異言語や異文化への抵抗意識が少なくなる。									
○保育現場に必要な英語や英会話を習得する。									
○外国語学習や活動を通して、異なったものを認め、それを受け入れる態度が身につく。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
海外の学校や幼稚園で保育・教育に携わってきた担当教員が保育・教育現場で必要とされる英会話・外国語を教授する。 またヨーロッパを中心とする保育・教育について紹介する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各時間の授業内容に合わせて資料を準備する。					予習や復習、資料集めなどを事前に連絡する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 英語で自己紹介、ゲーム、歌。				9	【授業単元】 各自が興味や関心を持っている海外の国について調べてまとめ			
	【到達目標】 英語で簡単な自己紹介やゲーム、歌を楽しむことができる。					【到達目標】 海外の文化に興味を持って調べたりすることができる。			
2	【授業単元】 英語でゲーム、歌。				10	【授業単元】 各自が興味や関心を持っている海外の国について調べてまとめ			
	【到達目標】 英語で子ども向け、成人向けのゲームや歌を楽しむことができる。					【到達目標】 海外の文化に興味を持って調べたりすることができる。			
3	【授業単元】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使う。				11	【授業単元】 英語のパンフレット作り。			
	【到達目標】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使うことができる。					【到達目標】 英語のパンフレット作ることができる。			
4	【授業単元】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使う。				12	【授業単元】 英語のパンフレット作り。			
	【到達目標】 英語と日本語でピクチャーカードを作り、使うことができる。					【到達目標】 英語のパンフレット作ることができる。			
5	【授業単元】 入国、レストラン、現地旅行、買い物の英会話を知り、使う。				13	【授業単元】 英語の劇や表現活動。			
	【到達目標】 入国、レストラン、現地旅行、買い物の英会話を知り、使うことが					【到達目標】 英語の劇や表現活動ができる。			
6	【授業単元】 入国、レストラン、現地旅行、買い物の英会話を知り、使う。				14	【授業単元】 英語の劇や表現活動。			
	【到達目標】 入国、レストラン、現地旅行、買い物の英会話を知り、使うことが					【到達目標】 英語の劇や表現活動ができる。			
7	【授業単元】 英語で道案内の表現。				15	【授業単元】 【定期テスト】学習したことを振り返り、テストに臨む。			
	【到達目標】 英語で道案内をすることができる。					【到達目標】 授業1～授業14を振り返り、定期テストを受けることができる。			
8	【授業単元】 英語で道案内の表現。【中間テスト】				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 英語で道案内をすることができる。				授業1～授業7 各時間、記述、論述又は作品提出の小テスト(各5点 計35点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】					授業8 本時間、記述、論述又は作品提出の中テスト(15点)				
○簡単な表現を覚え、話したり、書いたりする。					授業9～授業14 各時間、記述、論述又は作品提出の小テスト(各5点 計30点)				
○受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番が変更されることがある。					※授業1～授業14までのテストの点数の合計を÷2して40点満点で評価する。				
					授業15 本時間、記述、論述または発表の定期試験(60点)				
					講義全体を100点満点とし、次のA～Fの6段階で評価する。				
					成績 点数の合計 A:100-90 B:89-80 C:79-70 D:69-60 E:出席不良 F:59以下				

授 業 概 要

科目名	英会話	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	海老原孝一		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
○外国語学習を通して、異言語や異文化への抵抗意識が少なくなる。									
○保育現場で必要な英語や英会話を習得する。									
○外国語学習や活動を通して、異なったものを認め、それを受け入れる態度が身につく。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
海外の学校や幼稚園で保育・教育に携わってきた担当教員が保育・教育現場で必要とされる英会話・外国語を教授する。 またヨーロッパを中心とする保育・教育について紹介する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各時間の授業内容に合わせて資料を準備する。					予習や復習、資料集めなどを事前に連絡する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 英語のゲームを楽しもう①				9	【授業単元】 海外の秋の祭りを楽しもう①			
	【到達目標】 英語のゲームを考えたり、それを楽しむことができる。					【到達目標】 海外の秋の祭りを楽しむことができる。			
2	【授業単元】 英語のゲームを楽しもう②				10	【授業単元】 海外の秋の祭りを楽しもう②			
	【到達目標】 英語のゲームを考えたり、それを楽しむことができる。					【到達目標】 海外の秋の祭りを楽しむことができる。			
3	【授業単元】 英語の映画を楽しもう①				11	【授業単元】 クリスマス会の計画・準備をしよう①			
	【到達目標】 英語の映画を鑑賞し、楽しむことができる。					【到達目標】 海外のクリスマスを知り、理解することができる。			
4	【授業単元】 英語の映画を楽しもう②				12	【授業単元】 クリスマス会の計画・準備をしよう②			
	【到達目標】 英語の映画を鑑賞し、楽しむことができる。					【到達目標】 クリスマス会の準備を協力して行うことができる。			
5	【授業単元】 とっさの英会話①				13	【授業単元】 クリスマス会を楽しもう！			
	【到達目標】 日常生活で使う英語の表現を知り、使うことができる。					【到達目標】 クリスマス会の準備をして、会を楽しむことができる。			
6	【授業単元】 とっさの英会話②				14	【授業単元】 英語の歌やゲームなど活動を考えて、指導案にしてみよう。			
	【到達目標】 日常生活で使う英語の表現を知り、使うことができる。					【到達目標】 こどもや利用者が楽しく活動できる歌やゲーム、活動を考えて指導案を書くことができる。			
7	【授業単元】 英語で歌ってみよう①				15	【授業単元】 【定期テスト】学習したことを振り返り、テストに臨む。			
	【到達目標】 大好きな英語の歌を歌うことができる。					【到達目標】 授業1～授業14を振り返り、定期テストを受けることができる。			
8	【授業単元】 英語で歌ってみよう② 【中間テスト】これまで学習した内容から				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 大好きな英語の歌を歌うことができる。中間テストに取り組みことができる。				授業1～授業7 各時間、記述、論述又は作品提出の小テスト(各5点 計35点) 授業8 本時間、記述、論述又は作品提出の中テスト(15点) 授業9～授業14 各時間、記述、論述又は作品提出の小テスト(各5点 計30点) ※授業1～授業14までのテストの点数の合計を÷2して40点満点で評価する。 授業15 本時間、記述、論述または発表の定期試験(60点) 講義全体を100点満点とし、次のA～Fの6段階で評価する。 成績 点数の合計 A:100-90 B:89-80 C:79-70 D:69-60 E:出席不良 F:59以下				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
○簡単な表現を覚え、話したり、書いたりする。									
○受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番が変更されることがある。									

授 業 概 要

科目名	健康スポーツⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
幼稚園や保育園などの実習で行う製作をして遊ぶ表現活動を、各年齢に合わせて指導上の留意点を学び実践できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健体育の教員免許を持ち、療育センターで保育に関わった教員が実践を交えながら基本的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼稚園教育要領、保育所保育指針					授業で行った製作は、製作手順、配慮、対象年齢を記録しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				9	【授業単元】			
	【到達目標】 かざぐるまの製作の手順を知り、対象年齢、配慮を考えて製作することができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				10	【授業単元】			
	【到達目標】 変身カードの製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて演じることができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ロケットの製作の手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立て実践することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				12	【授業単元】			
	【到達目標】 花火の製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立てて実践することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				13	【授業単元】			
	【到達目標】 水ビーズ、小麦粉人形の製作手順を知り、感触遊びの展開を考えることができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト5点				14	【授業単元】			
	【到達目標】 トルネードの製作手順を知り、感触遊びの展開を考えて実践することができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 実習で行う製作あそび 小テスト10点				15	【授業単元】			
	【到達目標】 くす玉の製作手順を知り、対象年齢、配慮を考えて遊びの計画を立て実践することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 実習で行う製作遊び 振り返り 定期試験				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テスト60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は実技試験で行う。 毎回の小テストは1回目から6回目までは、5点満点、7回目は10点満点とする。				
	【到達目標】 1回目から7回までの振り返りを行い製作したものを発表することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
子どもの発達を理解しておくこと。									

授 業 概 要

科目名	健康スポーツ I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
幼稚園や保育園などの実習で行う表現活動の身体表現を中心とした遊びを、各年齢に合わせて指導上の留意点を学び実践できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
学校指定のジャージ、エプロン、お道具袋、その活動に必要なもの					授業で行った運動あそび、振り付け、手遊びは記録しておくこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育に生かす手遊び 小テスト5点				9	【授業単元】 運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 手遊びの効果を知ることができる。					【到達目標】 集団遊びを調べることができる①			
2	【授業単元】 保育に生かす手遊び② 小テスト5点				10	【授業単元】 運動遊びの指導法② 小テスト5点			
	【到達目標】 手遊び歌を覚えて練習することができる。					【到達目標】 集団遊びを調べることができる②			
3	【授業単元】 保育に生かす手遊び③ 小テスト5点				11	【授業単元】 運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 指人形を使って歌いながら演じることができる。					【到達目標】 集団遊びを実施することができる①			
4	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				12	【授業単元】 運動遊びの指導法 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の運動の基本的な目標を調べることができる。					【到達目標】 集団遊びを実施することができる②			
5	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				13	【授業単元】 主題遊び 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の体力づくりの要素を調べることができる。					【到達目標】 リズム感を使った身体表現遊びを模倣することができる。			
6	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				14	【授業単元】 主題遊び 小テスト5点			
	【到達目標】 幼児期の健康、体力づくりを実施することができる。①					【到達目標】 リズム感を使った身体表現遊びを実施することができる。			
7	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 小テスト5点				15	【授業単元】 主題遊び 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 幼児期の健康、体力づくりを実施することができる。②					【到達目標】 1～14回までの振り返りを行い、企画した遊びを実施することができる。			
8	【授業単元】 保育に生かす運動遊び 中テスト 振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。実技試験で行う・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行いリズム体操を行うことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学校指定のジャージで受講する。腕時計、アクセサリは外しておく。									

授 業 概 要

科目名	保育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育の意義・目的について理解する。日本及び世界の保育思想・保育施設の歴史を理解する。保育における「子ども理解」を深めるための環境構成、保育方法の原理を理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成と特徴を理解する。保育の現状と課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児者施設の福祉指導員、保育園保母、保育園園長職、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワークを中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新保育原理一わかりやすく保育の本質に迫る―[第2版]教育情報出版					事前にテキストを読み、大まかな概要を把握しておく				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育とは何か	【到達目標】 保育の基本的な考え方を知る	9	【授業単元】 保育の評価	10	【到達目標】 保育に必要な記録と省察・保護者からの苦情の背景を知り、苦情解決の原則と仕組みを知る			
	【授業単元】 子どもを取り巻く環境の変化			【授業単元】 家庭援助と子育て支援					
2	【到達目標】 家庭環境・社会環境の変化を知る	11	【授業単元】 家庭・小学校との連携	12	【到達目標】 子育て支援の背景を知り、説明することができる				
	【授業単元】 保育の歴史を学ぶ		【授業単元】 家庭・小学校との連携						
3	【到達目標】 世界の保育思想を知り記述することができる	13	【授業単元】 子どもの安全・虐待・障がい	14	【到達目標】 安全教育、虐待、配慮を要する子どもの背景を学び、集団生活の中での子どもの保育の方法を知る				
	【授業単元】 子どもを理解するために		【授業単元】 保育者の専門性						
4	【到達目標】 さまざまな子どもの見方、発達の捉え方を知る	15	【授業単元】 保育者の倫理観、子どもの人権を学び、保育者の専門性及び専門性を高める方法を知る	16	【到達目標】 幼稚園、保育所、認定こども園の現状から、それぞれの課題を知る				
	【授業単元】 保育環境とは		【授業単元】 定期試験 振り返り						
5	【到達目標】 環境による保育とは何かを知り、屋内屋外周囲の環境、環境としての保育者の役割を知る	17	【到達目標】 1～14回目までの振り返りを行い、「子ども理解」についての自分なりの考えを記述することができる	18	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の計画を作成することができる				
	【授業単元】 保育の内容		【授業単元】 保育の現状と課題						
6	【到達目標】 乳幼児にふさわしい生活を知り、ねらい・内容・領域について記述することができる	19	【授業単元】 保育の現状と課題	20	【到達目標】 幼稚園、保育所、認定こども園の現状から、それぞれの課題を知る				
	【授業単元】 保育の方法・形態		【授業単元】 定期試験 振り返り						
7	【到達目標】 実践の中で試される保育の方法を知り、遊びの面白さの指導を説明できる	21	【到達目標】 1～14回目までの振り返りを行い、「子ども理解」についての自分なりの考えを記述することができる	22	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の計画を作成することができる				
	【授業単元】 保育の計画 中テスト 振り返り		【授業単元】 定期試験 振り返り						
8	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の計画を作成することができる	23	【到達目標】 1～14回目までの振り返りを行い、「子ども理解」についての自分なりの考えを記述することができる	24	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の計画を作成することができる				
	【授業単元】 保育の計画 中テスト 振り返り		【授業単元】 定期試験 振り返り						
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
授業形態は講義であるが、グループワークを中心に問題意識を持って、受け身ではなく能動的かつ積極的に授業に参加してほしい					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				

授業概要

科目名	教育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	新井 忍		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、教育の意義、目的及び子ども家庭福祉との関わりについて理解する 2、教育の理想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3、教育の制度について理解する。 4、教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5、生涯学習社会における、教育の現状と課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園の園長を経て、現在も幼児のスポーツ活動の指導を続ける教員が、長きにわたる専門学校の講義の経験を活かし、教育者としての資質と知識を深めながら、人生の多くの時間を費やす 教育活動の意味を理解し、保育活動の中での教育を実践できるようにするための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育のための教育原理 ミネルヴァ書房					事前前に、本児の授業範囲の教科書、事業プリントを一読しておきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業ガイダンス 教育とは何か 教育の意義				9	【授業単元】 教育の方法			
	【到達目標】 学習を展開するにあたって、何を学ぶのかを明確にし、具体的な目標を持てるようになる。 人間にとって教育とは何かを説明できるようになる。					【到達目標】 様々な教育方法を説明できる 教育方法によって求める能力に違いがあることを説明できるようになる。 幼児期における教育方法を説明できるようになる。			
2	【授業単元】 教育とは何か 教育の目的 教育と家族				10	【授業単元】 教育の内容			
	【到達目標】 教育には、様々な目的があることを説明できるようになる。 教育と家族、地域社会の連携について説明できるようになる。					【到達目標】 教育は同じ目的であっても、内容によって、指導の仕方が違うことを説明できる。 教育の内容は社会に大きな影響を与えることを説明できるようになる			
3	【授業単元】 幼児教育思想の歴史				11	【授業単元】 教育の計画と評価			
	【到達目標】 諸外国の幼児教育教育の思想を現代の保育に関係づける。					【到達目標】 幼児教育と小学校以上の教育には違いがあることが説明できる。 教育の評価方法には様々な種類があることが説明できるようになる			
4	【授業単元】 日本の教育制度の成立と幼児教育の展開				12	【授業単元】 現代社会と生涯教育			
	【到達目標】 日本の教育の始まりと、戦前の教育について説明できるようになる。					【到達目標】 生涯教育についてその歴史や、動向、課題について説明できるようになる。			
5	【授業単元】 戦後における教育の最終先				13	【授業単元】 教育／保育現場をめぐる現代的課題			
	【到達目標】 戦後の教育と、新しい幼稚園、保育所の成り立ちについて説明できるようになる。					【到達目標】 教育、保育現場での課題を説明できるようになる。 保育教育の現代問題について解決方法を推論できるようになる。			
6	【授業単元】 教育の法規と制度				14	【授業単元】 連携による教育・保育			
	【到達目標】 日本国憲法と、それぞれ関連した教育に関する法律について、教育現場と関係づける					【到達目標】 教育と家庭福祉について説明できるようになる。 学校と家庭、地域の連携について説明できるようになる。			
7	【授業単元】 諸外国の教育 ①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 諸外国の教育の特長取り上げ日本と比較する。					【到達目標】 総復習のテスト 試験範囲 第1回～第14回授業の総復習 記述問題、文章を書く問題を中心に60点満点			
8	【授業単元】 諸外国の教育 ② 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 生涯国の教育を取り上げ日本と比較する。 中テストの検討				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「教育」には色々な意味があり、「人」として生きていくには欠かせないものである。幼児時代の教育は特に大きな意味を持っている。これから子どもたちに教育活動をするにあたり、大切にしたいことをみんなで考えていきます。									

授 業 概 要

科目名	社会的養護 I		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子	
学科 コース	こども保育科 昼間コース		学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 社会的養護の制度や実施体系等について理解する 					<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。 				
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ6 社会的養護 I /中央法規					<ul style="list-style-type: none"> 保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る 社会的養護に関する制度・施策・重要な用語を記録、整理しまとめる 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 社会的養護とは何か				9	【授業単元】 社会的養護とファミリーソーシャルワーク			
	【到達目標】 ・社会的養護の概念について理解し、その基本理念について述べることができる。					【到達目標】 ・社会的養護に関連する仕組みや用語について理解し、説明することができる。			
2	【授業単元】 社会的養護の歴史の変遷				10	【授業単元】 家庭養護と施設養護			
	【到達目標】 現在の社会的養護について理解を深めるために、どのような方法で児童を養護してきたのか、その歴史を振り返り、その変遷について説明できる。					【到達目標】 ・家庭養護と施設養護の現状と課題について述べるができる。			
3	【授業単元】 子どもの人権擁護と社会的養護				11	【授業単元】 社会的養護にかかわる専門職			
	【到達目標】 ・子どもの権利保障とその課題について学び、子どもの権利を守る仕組みについて述べるができる。					【到達目標】 ・保育士と連携する様々な専門職についての知識を深め、どのような連携、協働ができるか述べることができる。			
4	【授業単元】 社会的養護の基本原則				12	【授業単元】 社会的養護に関する社会的状況			
	【到達目標】 ・社会的養護の基本原則について説明することができる。					【到達目標】 ・社会的養護の現状について調べ、その課題について述べるができる。			
5	【授業単元】 社会的養護における保育士等の倫理と責務				13	【授業単元】 施設等の運営管理の現状と課題			
	【到達目標】 ・支援者に求められる「倫理」について学び、その責務について説明することができる。					【到達目標】 ・社会的養護施設等の運営について学び、そのあり方について述べるができる。			
6	【授業単元】 社会的養護の制度と法体系				14	【授業単元】 被措置児童等の虐待防止の現状と課題			
	【到達目標】 ・日本における社会的養護の制度と法体系について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・最近のニュースなどから事例を取り上げ、意見を述べるができる。			
7	【授業単元】 社会的養護のしくみと実施体系				15	【授業単元】 今後の社会的養護の課題と展望(定期試験)授業の振り返り			
	【到達目標】 ・社会的養護の体系について説明することができる。					【到達目標】 ・地域社会と社会的養護等の施設とのつながりの重要性について、調べ、述べるができる。			
8	【授業単元】 家庭養護と施設養護(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 ・施設養護の種類とその内容について自ら調べ、説明することができる。				<ul style="list-style-type: none"> 試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
意欲的に授業に臨むこと 専門用語などまとめたり、社会的養護に関する動向について調べ、保育の専門性を高めていくこと									

授 業 概 要

科目名	保育者論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	新井 忍		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、保育者の役割と倫理について理解する。 2、保育士の制度的な位置づけを理解する。 3、保育士の専門性について考察し理解する。 4、保育者の連携・協働について理解する。 5、保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園の園長を経て、現在も幼少児のスポーツ活動の指導を続ける教員が、長きにわたる専門学校の講義の経験を活かし、保育者として必要な知識と資質の理解を深めながら、子どもという生活の楽しさや喜びを伝えられる授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育者論 ー主体性のある保育者を目指してー 萌文書林 保育所保育指針ハンドブック ー Gakken					授業全に、授業範囲の教科書、プリントを一読しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学習オリエンテーション 保育者とは				9	【授業単元】 保育者の専門性 ③ 保育の質の向上			
	【到達目標】 学習を展開するにあたって、何を学ぶのかを明確にし、具体的な目標を持てるようになる。					【到達目標】 保育の質とは何かを、指導要領や指針から関係づける。			
2	【授業単元】 保育者の役割				10	【授業単元】 保育者の専門性 ③ 保育の質の向上			
	【到達目標】 保育士の役割について説明できるようになる。 幼稚園、保育所、認定こども園、社会的養護施設の役割について比較し説明できるようになる。 幼稚園、保育所、認定こども園、社会的養護施設での保育士の役割について、比較して説明できるようになる。					【到達目標】 保育の質を向上させるために、幼稚園教育要領や保育所保育指針指から関係づける。			
3	【授業単元】 保育士の倫理				11	【授業単元】 保育の質の向上 ④ 計画に基づく保育の実践と省察・評価			
	【到達目標】 保育士の倫理はなぜ必要なのかを推論する。 児童の権利委ついて学び権利と、倫理を関係づける。					【到達目標】 保育は計画的に行われていることを、資料から関係づける。			
4	【授業単元】 保育者の制度的な位置づけ				12	【授業単元】 保育の質の向上 ④ 計画に基づく保育の実践と省察・評価			
	【到達目標】 保育士、幼稚園教諭の資格の法的な定義について説明できるようになる。 欠格事由、信頼を損なう行為について具体的に述べるようになる。					【到達目標】 保育の評価とは、保育全体の評価と、子どもの評価があり、その仕方や記録の残し方を説明できるようになる。			
5	【授業単元】 保育士の専門性① 保育者の資質と能力				13	【授業単元】 保育者の連携・協働①、②園内の保育者チームおよび家庭との連携			
	【到達目標】 保育士の資質を、幼稚園教育要領や、保育所保育指針から推論する。					【到達目標】 保育は保育者同士の協同や家庭と連携して行うことを説明できるようになる。			
6	【授業単元】 保育士の専門性① 保育者の資質と能力				14	【授業単元】 保育の現代的な問題			
	【到達目標】 保育士の能力について、現在の自分お強みと、今後つけないといけない能力を具体的に述べるようになる。					【到達目標】 現代における子ども全体の課題を明らかにし、保育活動の中での対処の仕方を説明できるようになる。			
7	【授業単元】 保育者の専門性② 養護及び教育の一体的転回				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 養護とは何かを説明できるようになる。 養護を保育の中で展開するには何が必要か具体的に述べるようになる。					【到達目標】 総復習のテスト 試験範囲 第1回～第14回授業の総復習 記述問題、文章を書く問題を中心に80点満点			
8	【授業単元】 保育者の専門性② 養護及び教育の一体的転回 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 保育の中の教育とは何かを説明できるようになる。 教育を保育の中で展開するには何が必要か具体的に述べるようになる。 中テストの確認。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育士になるために必要な知識や考え方を学ぶために、積極的に授業に参加しましょう。									

授 業 概 要

科目名	保育の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>次の4点を目標とする。</p> <p>①保育実践にかかわる心理学の知識を習得すること、②子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めること、③子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解すること、④生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察すること。</p>									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもとかかわるために保育士として必要とされる、子どもの心理について理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、保育の心理学における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・保育の心理学概説 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の心理学の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・心とは何かについて理解し、説明することができる。 ・発達区分について理解し、説明することができる。 				9	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれたての赤ちゃんとその後の発達 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始反射について理解し、説明することができる。 			
2	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の身体発達 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の身体発達について理解し、説明することができる。 				10	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理的発達～その1～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの模倣の発達について理解し、説明することができる。 			
3	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子関係～その1～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の親子関係とその後の対人関係について理解し、説明することができる。 				11	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理的発達～その2～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものことばの発達について理解し、説明することができる。 			
4	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子関係～その2～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの心理について理解し、説明することができる。 ・親子関係と反抗期について理解し、説明することができる。 				12	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理的発達～その3～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの記憶の発達について理解し、説明することができる。 			
5	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子関係～その3～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の親子関係と感情の発達について理解し、説明することができる。 				13	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理的発達～その4 ピアジェ①～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学者・ピアジェの理論が、保育士に必要とされる理由について理解し、説明することができる。 ・ピアジェ理論における子どもの発達段階を理解し、説明することができる。 			
6	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子関係～その4～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の親子の愛着について理解し、説明することができる。 				14	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心理的発達～その5 ピアジェ②～ <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアジェ理論における自己中心的思考について理解し、説明することができる。 ・ピアジェの行ったさまざまな実験について理解し、説明することができる。 			
7	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6回目の振り返り ・中テスト <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6回の振り返りを行い、理解し、確認することができる。 				15	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～14回目の振り返り ・定期試験 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。 			
8	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中テスト返却と講評 ・8回～15回目オリエンテーション <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中テストの結果を受け止め、振り返り、後半の授業に生かすことができる。 ・8～15回の授業の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・保育者として自らの性格を理解し、説明することができる。 				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を、小テストの合計点とする。小数点以下は切り上げとする。 				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうにかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	保育の計画と評価	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教育課程・保育の計画と評価/萌文書林 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					・保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る ・重要な用語を記録、整理しまとめる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育の基本について				9	【授業単元】 指導計画の作成の基本と方法①			
	【到達目標】 ・幼稚園や保育所等における「保育」と小学校における「教育」の違いを説明することができる。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」・保育において重視している事柄について説明することができる。					【到達目標】 ・指導計画の作成手順の基本について理解し、計画を構想することができる。			
2	【授業単元】 教育課程・全体的な計画について				10	【授業単元】 指導計画の作成の基本と方法②			
	【到達目標】 ・「教育課程」「全体的な計画」がもつ役割・機能を説明することができる。 ・PDCAによる保育の過程について説明することができる。					【到達目標】 ・指導計画の作成手順の基本について理解し、説明することができる。			
3	【授業単元】 幼稚園の理解				11	【授業単元】 年齢に応じた保育と指導計画			
	【到達目標】 ・「幼稚園教育要領」の内容及び社会的背景について知り、説明することができる。					【到達目標】 ・年齢の特徴を理解して子どもの姿を捉えること、指導計画を立案することを関連づけて述べるができる。			
4	【授業単元】 保育所の理解/幼保連携型認定こども園の理解				12	【授業単元】 保育の評価			
	【到達目標】 ・「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容及び社会的背景について知り、説明することができる。					【到達目標】 ・保育の記録と・省察および評価の意味について知り、 保育実践を振り返る意義について述べるができる。			
5	【授業単元】 全体的な計画と指導計画の関係性①				13	【授業単元】 保育士及び保育所の自己評価			
	【到達目標】 ・指導計画がどのような考え方のもとに作成されているか理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・実際に自己評価チェックリストを用い、自己評価をすることの意義を説明することができる。			
6	【授業単元】 全体的な計画と指導計画の関係性②				14	【授業単元】 幼稚園・保育所・認定こども園の要録の理解			
	【到達目標】 ・指導計画(長期的・短期的)について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・子どもの育ちを支えるための資料としての要録について理解し、記録法を説明できる。			
7	【授業単元】 園の概要と環境図①				15	【授業単元】 園の1日の指導計画(定期試験)			
	【到達目標】 ・年齢ごとのデイリープログラムや保育の流れを想像し、環境図を作成することができる。					【到達目標】 ・時間配分や環境の構成を考え、1日の流れに沿った指導計画を立案することができる。			
8	【授業単元】 園の概要と環境図②(中テスト)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・年齢ごとのデイリープログラムや保育の流れを想像し、環境図を作成することができる。				講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
質の高い保育者になるために必要な知識、全体的な計画と指導計画のつながり、そしてどのように保育実践が計画されるのか授業の中で身に付けること									

授 業 概 要

科目名	保育内容総論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大原 智美	
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ・子どもの発達や取り巻く社会背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程に繋げて理解する。 ・保育の多様な展開について、具体的に理解する。 								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
幼稚園教諭を経験したのち、結婚・出産を経て保育士となる。認可保育園の現役の園長である。幼稚園と保育園の違いや、年齢別の保育、気になる子への支援や各園の現状や園を取り巻く課題などを分かりやすく伝えていく。現場実習などを取り入れ、現場を身近に知ることができるよう授業を展開する。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
保育所保育指針ハンドブック・演習・保育内容総論					保育園訪問(保育実習)			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1 ・ 2	【授業単元】 ・オリエンテーション(自己紹介等) ・保育所保育指針とは				17 ・ 18	【授業単元】 ・子どもの主体性を尊重する保育 ・環境を通して行う保育 ・生活や遊びによる総合的な保育		
	【到達目標】 ・担当教員のことを知り、今後の授業に期待を持つ。 ・保育所保育指針を知り、今後の学びの見通しを立てる。					【到達目標】 ・子どもの主体性を尊重する保育を理解する。 ・環境を通して行う保育を理解する。 ・生活や遊びによる総合的な保育を理解する。		
3 ・ 4	【授業単元】 ・保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 ・養護に関わる保育内容 ・保育内容のとらえ方				19 ・ 20	保育園訪問		
	【到達目標】 ・保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する。 ・保育における「養護」にかかわる内容を理解する。 ・保育内容を理解する。					【到達目標】 ・実際に保育園を訪問し、保育園を知る。		
5 ・ 6	【授業単元】 ・保育の一日の流れと保育内容 ・子どもの育ちと保育内容				21 ・ 22	児童発達支援事業所訪問		
	【到達目標】 ・保育の一日の流れと保育内容を理解する。 ・子どもの育ちと保育内容を理解する。					【到達目標】 ・児童発達支援事業所を訪問し、気になるこの声掛けや対応を知る。 ・児童の様子を見学し、事業所を知る。		
7 ・ 8	【授業単元】 ・0・1・2歳児の保育内容				23 ・ 24	学びの発表「保育園&児童発達支援事業所を訪問して」		
	【到達目標】 ・0・1・2歳児の保育内容を理解する。					【到達目標】 ・保育園訪問や児童発達支援事業所訪問で学んだことを発表する。 ・グループワークを行い、他者からも学びを得る。		
9 ・ 10	【授業単元】 ・3・4・5歳児の保育内容				25 ・ 26	【授業単元】 ・多様な保育ニーズと保育内容 ・外国籍の子どもと多文化共生の保育内容		
	【到達目標】 ・3・4・5歳児の保育内容を理解する。					【到達目標】 ・多様な保育ニーズと保育内容を理解する。 ・外国籍の子どもと多文化共生の保育内容を理解する。		
11 ・ 12	【授業単元】 ・保育の計画と観察・記録と評価				27 ・ 28	「気になる子ども」の保育内容		
	【到達目標】 ・保育の計画と観察・記録と評価を理解する。 ・映像から見た子どもの様子を観察し、実際に記録をとり、子どもの様子を理解する。					【到達目標】 ・「気になる子ども」の保育内容を理解する		
13 ・ 14	【授業単元】 ・保育の計画の立案 ・保護者への連絡帳の書き方				29 ・ 30	【授業単元】 ・これからの保育の課題 ・最後に		
	【到達目標】 ・保育計画を立案する。 ・映像から見た子どもの様子を観察し、実際に保護者にあてた連絡帳を書き、連絡帳の大切さを知る。					【到達目標】 ・これからの保育の課題を知る。 ・保育内容総論の授業を通して学んだことのまとめをし、振り返る。		
15 ・ 16	【授業単元】 グループワーク「保育園の園長に聞いてみよう」				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 ・今まで学んだことで分からなかったこと、知りたいこと、興味があることを明確にし、実際に働く現役の園長たちに質問し回答をもらい、保育内容を理解する。 ・現場でも役立つよう、質問する際は要点をまとめ、分かりやすく質問する。							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は元気に！授業を始める前に手遊びをみんなで行います。現場に出た際に役立つので楽しんで参加してほしいです。また、皆さんからの質問をいつでも受け付けます。どんな些細なことでも保育に大切なのでぜひ質問してください。 ・生徒のみんなと作り上げる授業にしていきたいので、積極的に参加してほしいです。 								

授 業 概 要

科目名	保育内容Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つ事を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また子どもの発達を、保育所保育指針における乳幼児の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児のそれぞれ5つの領域「健康人間関係・環境・言葉・表現」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的にりかいる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基本的な知識・技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実践に役立つ表現遊び 北王子書房					作品のシナリオを熟読して、子どもたちの前で発表できるやうに習得すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	【授業単元】 実習、こども教室の準備① 小テスト5点				17 18	【授業単元】 保育実技 小テスト5点			
	【到達目標】 実習、こども教室で使用するエプロンの名札の文字を切って布に貼ることができる。					【到達目標】 ペープサートの特徴を知り、シナリオを覚えて練習をし部分実習のつもりで発表する。			
3.4	【授業単元】 実習、こども教室の準備② 小テスト5点				19 20	【授業単元】 パネルシアター① 小テスト5点 「ひよこちゃんのこんなになっちゃった」			
	【到達目標】 名札の文字を布に縫い付けることができる。					【到達目標】 パネルシアターの特徴にふれ製作することができる。			
5.6	【授業単元】 エプロンシアター①小テスト5点 「とんでった麦わら帽子」				21 22	【授業単元】 パネルシアター② 小テスト5点			
	【到達目標】 帽子、丘、木、草のパーツを切ることができる。					【到達目標】 パネルシアターの製作をすることができる。			
7.8	【授業単元】 エプロンシアター② 小テスト5点				23 24	【授業単元】 保育実技 小テスト5点			
	【到達目標】 ウサギ、カメのパーツを切ることができる。					【到達目標】 パネルシアターの特徴を知り、シナリオを覚えて練習し部分実習のつもりで発表する。			
9 10	【授業単元】 エプロンシアター③小テスト5点				25 26	【授業単元】 パネルシアター①小テスト5点 「あめふりくまのこ」			
	【到達目標】 リス、ブラウンを切ることができる。					【到達目標】 パネルシアターの製作をする。			
11 12	【授業単元】 エプロンシアター④ 小テスト5点				27 28	【授業単元】 パネルシアター② 小テスト5点			
	【到達目標】 それぞれのキャラクターを製作する。					【到達目標】 パネルシアターの製作をすることができる。			
13 14	【授業単元】 ペープサート① 小テスト5点 「3匹のヤギのガラガラドン」				29 30	【授業単元】 保育実技 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 ペープサートの特徴にふれ製作することができる。					【到達目標】 シナリオ、歌を覚えて練習し部分実習のつもりで発表する。			
15 16	【授業単元】 ペープサート②小テスト5点				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は2回行い各1回30点とする。(製作、発表) ・毎回の小テストは各回(2コマ)5点満点、2回は10点満点で、その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 竹串を付けて完成させることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習で各年齢に合った保育実践ができるように、丁寧に製作、発表をする									

授 業 概 要

科目名	保育内容Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つ事を理解し、総合的に保育を展開していかための知識・技術・判断力を習得する。また子どもの発達を、保育所保育指針における乳幼児の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児のそれぞれ5つの領域「健康人間関係・環境・言葉・表現」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的にりかいます。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基本的な知識・技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実践に役立つ表現遊び 北王子書房					作品のシナリオを熟読して、子どもたちの前で発表できるように習得すること				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	【授業単元】 紙皿シアター①小テスト5点 【到達目標】 紙皿シアターの特徴に触れ製作することができる。				17 18	【授業単元】 スケッチブックシアター①小テスト5点 「どっちだ」 【到達目標】 スケッチブックシアターを製作することができる。			
	【授業単元】 紙皿シアター②小テスト5点 【到達目標】 紙皿シアターを製作することができる。					【授業単元】 保育実技 スケッチブックシアター②小テスト5点 【到達目標】 部分実習のつもりで発表することができる。			
3.4	【授業単元】 紙皿シアター③小テスト5点 【到達目標】 紙皿シアターを製作することができる。				21 22	【授業単元】 オベレッタ①小テスト5点 【到達目標】 オベレッタの練習をすることができる。			
	【授業単元】 紙皿シアター④小テスト5点 【到達目標】 完成させ、シナリオ、歌を覚え部分実習のつもりで発表する。					【授業単元】 オベレッタ②小テスト5点 【到達目標】 オベレッタの練習をすることができる。			
5.6	【授業単元】 自己紹介カード①小テスト5点 「板がえし」 【到達目標】 自己紹介カードを製作することができる。				25 26	【授業単元】 オベレッタ③小テスト5点 【到達目標】 オベレッタの練習をすることができる。			
	【授業単元】 自己紹介カード②小テスト5点 【到達目標】 自己紹介カードを完成させることができる。					【授業単元】 オベレッタ④ 小テスト5点 【到達目標】 オベレッタの練習をすることができる。			
9 10	【授業単元】 自己紹介カード①小テスト5点 「4面カード」 【到達目標】 4面の内容を考えて製作することができる。				29 30	【授業単元】 保育実技 定期試験 【到達目標】 オベレッタの発表をすることができる。			
	【授業単元】 自己紹介カード② 小テスト5点 【到達目標】 自己紹介カードを製作することができる。					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は2回行い各1回30点とする。(製作、発表) ・毎回の小テストは各回(2コマ)5点満点、2回は10点満点で、その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習で各年齢に合った保育実践ができるように、丁寧に製作、発表をする									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(造形)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	関根 凌子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2保育における教材の活用及び作成と保育、環境の構成及び具体的な展開のために実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教員の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、粘土、クレヨン、絵の具等を使い造形活動を実践する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等 お道具袋 色画用紙 粘土 絵の具					次回の授業課題のテーマを考えてくる 普段の生活の中で造形材料を探し制作の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 造形活動の意義 造形活動の種類 子供の絵の発達過程について 材料や用具や道具の場所と扱い方 教室の使い方 切り紙 紙工作				9	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と方法②陶芸粘土 軽量粘土石粉粘土Ⅰ 粘土の種類について			
	【到達目標】 子供の絵の発達について理解し絵を描き提出する事が出来る。造形活動の意義を理解し、基本的な紙の折り方切り方について理解し作品を提出する事が出来る。					【到達目標】 粘土の種類について理解出来る。粘土作品の形の修正を理解出来る。軽量粘土と石粉粘土の性質を理解し制作し個を活かした作品を提出する事が出来る。			
2	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法①技法マーブリング 色彩基礎知識について				10	【授業単元】 幼児造形における平面表現の理解と展開方法⑥技法洗い流し絵Ⅲ 色彩効果についてⅡ			
	【到達目標】 色彩の基礎知識を踏まえ絵の具の混色が理解し実践出来る。技法の方法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】 色彩効果について理解し、技法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る			
3	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法②技法ころがし絵 画材の成分について				11	【授業単元】 幼児造形における立体技法の理解と展開方法③軽量粘土 石粉粘土Ⅱ 色覚について			
	【到達目標】 画材の成分について理解し画材の扱い方を理解出来る。技法の方法を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】 色覚について理解出来る。石粉粘土にやすりをかけ彩色し仕上げ方を理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る			
4	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法③技法染め紙 紙の種類について				12	【授業単元】 幼児造形における平面と立体表現の理解と展開方法④油粘土 版画の種類と制作方法について			
	【到達目標】 紙の種類について知り、適切な使い方が理解出来る。技法の方法を理解して考えて作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】 版画の種類と制作方法について理解し、個を活かした作品を提出する事が出来る。			
5	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法④技法洗い流し絵Ⅰ 画材の性質について				13	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と展開方法⑤小麦粉粘土 可塑性について			
	【到達目標】 画材の性質について理解し、技法の方法を理解して個を活かした作品を提出する事が出来る					【到達目標】 可塑性について理解し、個を活かした作品を提出する事が出来る			
6	【授業単元】 幼児造形における平面技法の理解と展開方法⑤技法洗い流し絵Ⅱ 色彩効果についてⅠ				14	【授業単元】 幼児造形における平面表現の理解と展開方法技法⑦ 技法 紙粘土の彩色 スケッチブックのまとめ方について			
	【到達目標】 色彩効果について理解し、技法の方法を理解して個を活かした作品を提出する事が出来る					【到達目標】 スケッチブックに自分の行った技法をみため、工夫した作品の提出の仕方が理解出来る。個を活かした作品を提出する事が出来る。			
7	【授業単元】 幼児造形における立体表現の理解と方法①陶芸用粘土 粘土用具について				15	【授業単元】 定期テストみため遊び 発表			
	【到達目標】 粘土用具について理解し、基本的な粘土の制作方法を理解し考えてきた作品を制作して提出する事が出来る。					【到達目標】 造形のみため みため遊びを共有をする事が出来る			
8	【授業単元】 中テスト みため遊び				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 色彩基礎知識を理解して、それぞれの技法作品から色々な形など発見し表現出来る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
造形活動がしやすく汚れてもいい服装で授業を行う 準備片づけなど協力して行う									

授 業 概 要

科目名	乳児保育 I		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	出口 加奈子	
学科 コース	こども保育科 昼間コース		学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。保育所等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について基礎知識を習得する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との望ましい連携について考えを述べる事ができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保育学・発達心理学を専攻し保育士資格・幼稚園教諭免許を有し長きにわたる教員経験を有する教員が、具体的に乳児の生活場面を取り上げ授業を行う。授業で得た知識が子どもの発達をとらえる「観察力」、その時々合った対応を考える「臨機応変な思考力」の源になるよう学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
乳児保育演習ブック【第2版】 松本峰雄 監修 ミネルヴァ書房					授業内で乳児の発達にそって手遊び・わらべうた・絵本を紹介するので、自らも調べ探し、レパトリーを増やすよう努める。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 乳児保育とは何か				9	【授業単元】 0～3歳児の発達過程			
	【到達目標】 保育の場での乳児とは何か、乳児保育の対象について説明できる。 乳児保育の重要性について、「子ども」「保護者」「社会」の3つの視点から考えを述べる。					【到達目標】 0～3歳児の発達の特徴をとらえ、発達の道筋について説明できる。 人との関わりによって形成される、基本的信頼関係について「愛着」の視点から説明できる。			
2	【授業単元】 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念				10	【授業単元】 6か月未満の子どもの育ちと保育内容			
	【到達目標】 「保育所保育指針」における養護のねらいを踏まえ、養護と教育が一体となって展開されることを具体的な場面を取り上げ説明できる。 「ねらい及び内容」について、0歳児の3つの視点と1・2歳児の5領域、これらの関連性を指摘する。					【到達目標】 6か月未満の子どもの「発育・発達」「授乳・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫し作成する。			
3	【授業単元】 保育所・認定こども園における乳児保育				11	【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容			
	【到達目標】 保育所・認定こども園における乳児保育の「物的環境」「人的環境」として規定されている事柄を列記する。 生活の流れをデイリープログラムの例から把握し、乳児が心地よく生活するとどのようなことか、必要事項を挙げる。					【到達目標】 6か月以上1歳未満の子どもの「発育・発達」「離乳開始・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫し作成する。			
4	【授業単元】 「乳児院」「家庭的保育等、地域型保育事業」における乳児保育				12	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容			
	【到達目標】 乳児院の施設としての規定事項と養育内容について説明できる。 「子ども・子育て支援新制度」における乳児のための保育施設の概要を知り、身近な地域の施設について調べる。					【到達目標】 1歳以上2歳未満の子どもの「発育・発達」「食事・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫し作成する。			
5	【授業単元】 子育て支援における乳児保育				13	【授業単元】 2歳以上3歳未満の子どもの育ちと保育内容			
	【到達目標】 保育所や認定こども園等の保育施設には、在園児の保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援があることを知る。それぞれの支援について具体的にどのような支援があるか調べる。					【到達目標】 2歳以上3歳未満の子どもの「発育・発達」「食事・睡眠・排泄・着脱・清潔」をふまえ、保育における留意点を挙げる。 生活と遊びが豊かになる保育環境の観点から遊び教材を工夫し作成する。			
6	【授業単元】 保護者とのパートナーシップ				14	【授業単元】 乳児保育の現状と課題			
	【到達目標】 園の中で行われている保護者支援について、具体的な支援内容を挙げて留意点を述べる。 「朝の受け入れ」「お迎え・お帰りの保育事例を通して、子どもの対応と保護者支援について、多角的な視点から考えを述べる。					【到達目標】 「保護者の就労」「保育実践」「生涯発達・人間形成」これら3つの視点から、乳児保育の課題を挙げる。			
7	【授業単元】 職員間・地域の関係機関との連携				15	【授業単元】 定期試験、第1回～第14回の振り返り、試験解説			
	【到達目標】 事例をもとに、専門職である異職種との連携、職員間の連携について考えを述べる。 連携することが必要な地域の関係機関について調べる。					【到達目標】 これまでの授業を振り返り、理解できなかった事柄について教科書の該当項目等で確認する。			
8	【授業単元】 これまでのおさらいと中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまで7回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ、教科書の該当項目等で確認する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書にそって授業を行うため、授業前後に該当項目に目を通し、気になる事柄、学んだ内容を教科書にメモし、保育者になった後も、教科書を活用できるよう取り組みましょう。									

授 業 概 要

科目名	障害児保育 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 障害児保育の理念を理解する。 2. 多様な障害の特性とその障害に応じた援助や配慮について理解する。 3. 特別な配慮を必要とする子どもの具体的援助、家庭支援や関係機関との連携、現状と課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護、訪問看護で小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」、介護福祉士養成課程では「障害の理解」を担当してきた教員が授業を行う。障害のとらえ方、子どもの発達と障害の特性およびその支援について意見交換しながら授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる障害児保育 第2版 ミネルヴァ書房 2019年					事前にテキストの授業範囲を読みキーワードや疑問点を見つけておく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1部 障害児保育の概論 I 障害児保育とは何か 【到達目標】 障害のとらえ方の変化について自分の言葉で述べる事ができる 乳幼児の発達課題と障害特性を関連付けて述べる事ができる				9	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 ・聴覚・言語障害児 【到達目標】 聴覚・言語障害児の特性について述べる事ができる 聴覚・言語障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べる事ができる			
2	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 II 障害児保育のしくみ 【到達目標】 障害児保育の変遷について述べる事ができる。 乳幼児健診と障害の早期発見について述べる事ができる。				10	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 肢体不自由児 医療的ケア児 【到達目標】 肢体不自由児の特性を述べる事ができる。 肢体不自由児の特性を踏まえた支援について述べる事ができる 医療的ケアの具体的な支援について述べる事ができる			
3	【授業単元】 III 知的障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 知的障害児の認知の特徴について述べる事ができる 知的障害児とのコミュニケーションの工夫について述べる事ができる。				11	【授業単元】 第4部支援の技法 X 家族への支援 【到達目標】 親への支援の方法について述べる事ができる。 きょうだい児のケアについて考えを述べる事ができる			
4	【授業単元】 IV 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の特性を述べる事ができる 自閉症スペクトラム障害の特性を踏まえた支援について述べる事ができる				12	【授業単元】 XII 発達支援の技法① 【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
5	【授業単元】 V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 注意欠如・多動性障害の特性を述べる事ができる 注意欠如・多動性障害の特性を踏まえた支援について述べる事ができる				13	【授業単元】 XII 発達支援の技法② 【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
6	【授業単元】 VI 学習障害の特徴と保育での支援 発達性協調運動障害 【到達目標】 学習障害の特性を述べる事ができる。 学習障害の特性を踏まえた支援について述べる事ができる 発達性協調運動障害の特性について述べる事ができる				14	【授業単元】 1～14回の振り返り 【到達目標】 1～14回の授業を振り返り、障害のとらえ方の変化を述べる事ができる。 障害のとらえ方や制度、障害児保育に関する疑問や課題について述べる事ができる。			
7	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 視覚障害児 【到達目標】 視覚障害児の特性について述べる事ができる 視覚障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べる事ができる				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 1～14回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができる			
8	【授業単元】 1～7回の振り返り 中テスト 【到達目標】 1～7回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む。 こどもに関するニュースや障がいを持つ人に関する情報に関心を持つ。 シラバス上「障害」と表記し、授業では適宜「障がい・障害・しょうがい」を使用する。									

授 業 概 要

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><保育所実習の内容></p> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開											
2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり											
3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全											
4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価											
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導 I - ①	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・保育実習の意義・目的を理解する。・保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。・各年齢の子どもの発達や遊び、保育内容を理解する。									
【学習内容】									
・幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での現場経験を活かし、学生が実習に向けて、知識、技術、実践力を習得することで、自信を持って実習に臨むことが出来るように授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規「実習日誌の書き方」一藝社「保育所保育指針ガイドブック」学研「0～6歳児の発達と保育」成美堂出版					授業の振り返りを行う。・保育実技は子ども達の前で自信をもって行える様に練習をすることで身に付ける。・普段の生活の中で子どもを観察することを心掛ける。				
回					回	授業計画			
1	【授業単元】 ・保育実習の意義・目的・実習の内容 【到達目標】 ・保育実習の目的、概要について理解し、説明することが出来る。 ・実習の内容を理解し、自分の課題を明確にする。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				9	【授業単元】 ・「保育所保育指針」① 【到達目標】 ・「保育所保育指針」内容について理解し、ポイントについて説明することが出来る。			
2	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び① 【到達目標】 ・0歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				10	【授業単元】 ・「保育所保育指針」② 【到達目標】 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における共通化のポイントについて理解し、説明することが出来る			
3	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び② 【到達目標】 ・1歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、説明することが出来る。				11	【授業単元】 ・施設実習 【到達目標】 ・施設実習内容、種別と特徴について理解することが出来る			
4	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び③ 【到達目標】 ・2歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				12	【授業単元】 ・実習日誌の記入方法① 【到達目標】 ・実習日誌を書く意味について理解し、記入方法を理解することが出来る。			
5	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び④ 【到達目標】 ・3歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、説明することが出来る。				13	【授業単元】 ・実習日誌の記入方法② 【到達目標】 ・実際に日誌を書くことで、記入方法について理解を深める。			
6	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び⑤ 【到達目標】 ・4歳児の発達、遊び、実習生の関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				14	【授業単元】 ・指導案作成方法 【到達目標】 ・指導案作成方法を理解し、実際に書くことが出来る。			
7	【授業単元】 ・各年齢・クラスにおける発達や遊び⑥ 【到達目標】 ・各年齢(3歳児～6歳児クラス)の指導案を実際に作成することが出来る。				15	【授業単元】 ・定期試験(1回目～14回目の振り返り) 【到達目標】 ・授業内容の振り返りをし、ポイントを説明出来る。・定期試験内容について理解する。			
8	【授業単元】 ・中テスト 【到達目標】 ・中テストの内容が理解出来る。 ・1回目～7回目の内容を振り返り、理解出来る。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分とし、A～Fの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数で無い場合は、小数点以下は切り上げとする。 試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・使用テキスト等忘れ物をしないこと。・実習に向けて、授業を通して意欲や意識を高めていくこと。									

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅰ-②	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員					
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間	
【授業を通じての到達目標】 保育所・施設実習の意義・目的、内容を理解し、自らの実習の課題が分かる。 実習保育所・施設における、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務を守ることができる。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容が具体的に分かる。 実習事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習への課題・目標が分かる。												
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。												
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】						
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。						
授業計画												
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1. 保育所実習の意義 (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化												
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】						
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。						

授 業 概 要

科目名	実習トレーニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・実習(保育所・施設・幼稚園)に向けて、必要な知識、技術を習得することで、意欲や課題意識を高める。 ・保育者としての常識、マナー、倫理観について学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での現場経験を活かし、学生が実習に向けて、知識、技術、実践力を習得することで、自信を持って実習に臨むことが出来るように授業を行う。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規「実習日誌の描き方」一藝社 「0～6歳児の発達と保育」成美堂出版 「保育所保育指針ハンドブック」					授業の振り返りを行う。保育実技については子ども達の前で自信を持って出来る様に練習を行う。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・実習とは何か 【到達目標】 ・実習とは何かについて理解し説明することが出来る。				9	【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ・実習の心構え ・保育者としての常識、マナー 【到達目標】 ・実習の心構えについて理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。 ・保育者の常識、マナーについて理解し、説明することが出来る。				10	【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ・幼稚園・保育所 【到達目標】 ・幼稚園・保育所について、それぞれの特徴、役割等について説明することが出来る。				11	【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ・認定こども園・児童福祉施設(保育所以外) 【到達目標】 ・認定こども園・児童福祉施設(保育所以外9)について、それぞれの特徴、役割等について説明することが出来る。				12	【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ・年齢に応じた発達と遊び(乳児クラス) 【到達目標】 ・各年齢、クラスにおける発達や遊び・関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				13	【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 ・年齢に応じた発達と遊び(幼児クラス) 【到達目標】 ・各年齢、クラスにおける発達や遊び・関わり方を理解し、説明することが出来る。 ・保育実技を習得し、実践することが出来る。				14	【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ・実習の必要な記録について(実習日誌・指導案) 【到達目標】 ・実習の記録、情報の取り扱いについて理解し、説明出来る。 ・指導案の立案の方法を理解し、説明することが出来る。				15	【授業単元】 【到達目標】			
...	【授業単元】 ・定期試験(1回～7回目までの振り返りをする) 【到達目標】 ・定期試験の内容を理解することが出来る。				【成績評価の方法と基準】 ・講義全体を100点満点とし、小テスト(1回～6回まで各5点、7回目10点の合計40点)と定期テスト60点の100点満点とする。 ・科目の評価は、定期試験60%、小テスト40%との配分で総合し、A～Fの6段階で評価を行う。 ・試験は筆記・実技で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習について理解を深め実習に向けての意欲や課題意識を高めるようにする。									

授業概要

科目名	音楽 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	佐藤晴奈・城田冬子・松澤友妃子・村上陽子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士を養成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力・実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】 幼児のための音楽教育・こどもの歌ベストテン					【授業時間外における学習】 授業で学んだ曲を練習室・自宅等で反復練習し、復習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 音楽 I で学習する内容や試験について説明を受け理解する。 課題曲の説明を受け、歌唱・曲を覚える。 「かえるのがつしょう」の右手を弾けるようにする。</p>				9	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の右手・左手を歌いながら弾けるようにする。</p>			
2	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。 課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「かえるのがつしょう」の右手・左手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の右手を弾けるようにする。</p>				10	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右・左手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。</p>			
3	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。 課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右手を歌いながら弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。</p>				11	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の右・左手を歌いながら弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の右手・左手を歌いながら弾けるようにする。</p>			
4	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右・左手を弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の右手を弾けるようにする。</p>				12	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の両手を弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の両手を弾けるようにする。</p>			
5	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の右・左手を歌いながら弾けるようにする。 「かえるのうた」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の右手・左手を歌いながら弾けるようにする。</p>				13	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おはようのうた」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。 「おかえりのうた」の弾き歌い練習をする。 「むすんでひらいて」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。</p>			
6	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「ロンドン橋」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。</p>				14	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 定期試験に向けて 「おかえりのうた」「おはようのうた」2曲と「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」の3曲から各自1曲を選択し 合計3曲弾き歌い演奏をする。 歌声がしっかりと聞こえ、流れが止まらない演奏を目指す。</p>			
7	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 課題曲の歌唱・曲を覚える。課題曲の説明を受け、各自の進度に応じて練習に取り組む。 「おかえりのうた」の両手・弾き歌いで弾けるようにする。 「かえるのがつしょう」の弾き歌い練習をする。 「かたつむり」の右手を弾けるようにする。</p>				15	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 定期試験 「おかえりのうた」「おはようのうた」2曲と「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」の3曲から各自1曲選択 合計3曲の弾き歌い発表をする。 歌声がしっかりと聞こえ、流れが止まらない演奏を目指す。</p>			
8	<p>【授業単元】 弾き歌い 「かえるのがつしょう」「ロンドン橋」「かたつむり」「むすんでひらいて」 「おかえりのうた」「おはようのうた」</p> <p>【到達目標】 中テスト課題曲「おかえりのうた」「かえるのがつしょう」2曲弾き歌いを発表する。 歌声がしっかりと聞こえ、流れが止まらない演奏を目指す。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】 定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は実技試験で行う。指定された課題曲を指示に従い演奏する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】 将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に付けるため 毎回の授業を真剣に取り組むこと。授業時間外にもできる限り練習し、 疑問点はその都度教員に聞き、解決、理解することが望ましい。									

授業概要

科目名	音楽Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	佐藤晴奈、城田冬子、松澤友妃子、村上陽子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士・幼稚園教諭を育成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が、保育士・幼稚園教諭に求められる音楽の基礎力・実技力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
幼児のための音楽教育(教育芸術社)、こどもの歌ベストテン(ドレミ楽譜出版社)					授業で取り組んだ曲及び次週の小テスト課題曲を、各自授業時間外に学校または自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・後期課題曲の歌唱「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」 ・「さようならのうた」 ・「おかたづけ」右手弾き歌い				9	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おべんとう」(両手弾き歌い)			
	【到達目標】 ・後期授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 ・後期課題曲(7曲)を歌唱し歌詞を覚える。 ・「おかたづけ」右手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・「おべんとう」両手弾き歌いを最後まで間違えずに演奏できるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中からまだ演奏したことのない曲を1曲選択し、右手弾き歌いについての説明を受け理解し練習する。			
2	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おかたづけ」(両手弾き歌い)				10	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(右手弾き歌い)			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、歌詞を確実に覚え、間違えずに歌えるよう練習する。 ・「おかたづけ」両手弾き歌いについて説明を受け理解し、練習して最後まで弾けるようにする。 ・「朝のうた」右手の弾き方についての説明を受け理解し練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第9回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の右手弾き歌いを確実にできるよう練習する。またその曲の両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。			
3	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「朝のうた」(右手弾き歌い)				11	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、歌詞を確実に覚え、楽譜なしでも歌えるよう練習する。 ・「朝のうた」右手弾き歌いを練習し最後まで間違えずに弾けるよう練習する。 ・「朝のうた」両手弾き歌いについての説明を受け理解し練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第10回目の授業で選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から、残りの1曲について右手弾き歌い説明を受け練習する。			
4	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「朝のうた」(両手弾き歌い)				12	・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(右手弾き歌い)			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも間違えずに歌えるよう練習する。 ・「朝のうた」両手弾き歌いを練習し最後まで演奏できるよう練習する。 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自1曲を選択し、右手弾き歌いについて説明を受け理解し、練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第11回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の右手弾き歌いを確実にできるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。			
5	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(右手弾き歌い)				13	・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・第4回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自が選択し練習した曲の右手弾き歌いを確実にできるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・第12回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲の両手弾き歌いを確実にできるよう練習する。 ・「さようならのうた」右手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。			
6	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ課題曲(両手弾き歌い)				14	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「さようならのうた」(右手弾き歌いまたは両手)			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・第5回目の授業で「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から選択し練習した曲を両手弾き歌いで間違えずに弾けるよう練習する。 ・「おべんとう」の両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。					【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。 ・「さようならのうた」両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。 ・「朝のうた」「おべんとう」と「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自で選んだ1曲を両手弾き歌いで確実に演奏できるよう練習する。			
7	【授業単元】 ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱 ・「おべんとう」(右手弾き歌い)				15	【授業単元】 ・【定期試験】「朝のうた」「おべんとう」と「とけいのうた」「たなばた」「まめまき」の中から各自選択した1曲の合計3曲(両手弾き歌い)※「朝のうた」「おべんとう」は2番まで			
	【到達目標】 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも確実に歌えるよう練習する。 ・「おべんとう」の両手弾き歌いを最後まで演奏できるよう練習する。また両手弾き歌いについて説明を受け理解し練習する。 ・「朝のうた」「おかたづけ」の両手弾き歌いが確実に演奏できるよう練習する。					【到達目標】 ・人前でも相手に聞こえるような声量で止まらず弾き歌いのできるよう練習し、定期試験でその成果を発揮する。			
8	【授業単元】 ・【中テスト】「朝のうた」「おかたづけ」の2曲(両手弾き歌い)※朝のうたは2番まで ・「朝のうた」「おべんとう」「たなばた」「とけいのうた」「おかたづけ」「まめまき」「さようならのうた」の歌唱				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は実技のみで、指定された課題曲を指示に従い演奏する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・人前でも相手に聞こえるような声量で止まらず弾き歌いのできるよう練習し、中テストでその成果を発揮する。 ・後期課題曲(7曲)の歌唱をし、楽譜なしでも大きな声で歌えるよう練習する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に着けるために、毎回の授業を真剣に取り組む授業時間外にもできる限り練習する。また疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決・理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	こども教室 I (にこにこプレキッズ)	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】 子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での30年余りの乳幼児保育・教育の現場経験を活かし、保育の知識・技術、また、保育者に求められる連携の必要性、企画・運営力、実践力を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・授業の目的、こども教室について理解する ・保育者としてのマナーを学ぶ ・子どもを受け入れる為の準備について学ぶ				25	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
2	【到達目標】 ・こども教室に必要な身構え・気構え・心構えを理解し、行動変容する準備ができる。 ・保育者としての基本的なマナーについて理解し、記述することができる ・子どもを受け入れる為の準備の必要性について理解し、実際に準備する				26	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
3					27				
4	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				28	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
5	【到達目標】 ・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で子どもと関わることが出来る。 ・教室の活動の流れを理解し、動くことが出来る。				29	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
6					30				
7	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				31	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
8	【到達目標】 ・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で子どもと関わることが出来る。 ・教室の活動の流れを理解し、動くことが出来る。				32	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
9					33				
10	【授業単元】 学生の企画・運営による活動				34	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
11	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				35	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
12					36				
13	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				37	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
14	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				38	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
15					39				
16	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				40	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
17	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				41	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
18					42				
19	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				43	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動 ・前期活動の振り返り			
20	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				44	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、全体把握をしながら、子どもと適切な関わりが出来る。 ・前期活動を振り返り、自己評価が出来る。			
21					45				
22	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				こども教室のルーブリックを用いて評価する。				
23	【到達目標】 ・主活動担当：自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外：担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				【小テストについて】 毎回の小テストは5点満点とする。ただし、15回目の小テストは10点満点とする。 1-15回目の小テストの合計点の1/2(小数点繰り上げ)を小テストの点数(40点)とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、その合計点を定期試験の点数(60点)とする。				
24					【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する				
【履修に当たっての心構え・留意点】 実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。									

授 業 概 要

科目名	こども教室Ⅱ(にこにこプレキッズ)	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	河野亮子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
子ども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してよりよい保育の実践力を習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭免許、保育士資格を有する教員が、幼稚園、保育所での30年余りの乳幼児保育・教育の現場経験を活かし、保育の知識・技術、また、保育者に求められる 連携の必要性、企画・運営力、実践力を養うための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ・学校指定ポロシャツ・学校指定エプロン お道具袋・その他活動に必要な道具・PCかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・後期子ども教室の準備 ・にこにこプレキッズの活動内容、流れ				25	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
2					26				
3	【到達目標】 ・「にこにこプレキッズ」のルールや流れを理解することが出来る。 ・グループに分かれ活動内容を考え、計画を立てることが出来る。 ・教室内の環境構成を考え、整えることが出来る。				27	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートとし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
4	【授業単元】 ・講師の企画・運営による活動				28	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
5					29				
6	【到達目標】 ・講師が企画した活動に参加し、適切な方法で積極的に子どもと関わることが出来る。 ・教室の滑動の流れに沿って、臨機応変に動くことが出来る。				30	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートとし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
7	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				31	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
8					32				
9	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				33	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題解決が出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
10	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				34	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
11					35				
12	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				36	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
13	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				37	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
14					38				
15	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				39	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
16	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				40	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動			
17					41				
18	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				42	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来ると共に、課題を見つけることが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。			
19	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				43	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動 ・後期活動の振り返り			
20					44				
21	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。				45	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、臨機応変な対応が出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、全体を把握しながら、子どもと適切な関わりが出来る。 ・後期活動を振り返り自己評価が出来る。			
22	【授業単元】 ・学生の企画・運営による活動				【成績評価の方法と基準】 こども教室のルーブリックを用いて評価する。 【小テストについて】 毎回の小テストは5点満点とする。ただし、15回目の小テストは10点満点とする。 1-15回目の小テストの合計点の1/2(小数点繰り上げ)を小テストの点数(40点分)とする。 【定期試験について】 毎回4点満点の配点で試験(活動の振り返り)を記述形式で実施し、その合計点を定期試験の点数(60点分)とする。 【評価について】 小テスト・定期試験の合計点からA-Fの6段階で評価する				
23									
24	【到達目標】 ・主活動担当: 自らが考えた活動を実践し、問題を発見することが出来る。 ・担当者以外: 担当学生をサポートし、適切な方法で子どもや保護者と関わることが出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員である事を認識し、責任感を持って授業に参加する。提出物は期限を守る事。									

授 業 概 要

科目名	こども教室 I (らららキッズステーション)		必修 選択の別		選択		開講 区分		前期		担当 教員	齋藤清美	
学科 コース	こども保育科		学年	1年		授業 形態	演習		総単位数	3 単位	総時間数	90 時間	
【授業を通じての到達目標】													
こども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してより良い保育の実践力を習得する。													
【学習内容】													
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、遊びの教室、療育センターで子どもと関わっている教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる。													
【使用教科書・教材・参考図書】							【授業時間外における学習】						
ジャージ、学校指定ポロシャツ、学校指定エプロン、お道具袋 その他活動に必要な道具、pcかタブレット端末							活動担当時の指導案作成や製作物の準備をする 各年齢の発達を予習する						
コマ	授業計画						コマ	授業計画					
1 2 3	【授業単元】 ・ 授業の目的、こども教室について理解する。 ・ 保育者としてのマナーを学ぶ。						25 26 27	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
	【到達目標】 ・ こども教室に必要な身構え、気構え、心構えを理解し行動変容する準備ができる。 ・ 保育者としての基本的なマナーを理解し記述することができる							【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ 年間の計画を立て準備をする。							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
4 5 6	【到達目標】 ・ こどもが楽しく参加できるように準備をする。						28 29 30	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ はじめましての会を行い、自己紹介をすることができる。 ・ 楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
7 8 9	【到達目標】 ・ こどもの名前を呼んでみる。 ・ 笑顔で関わる。						31 32 33	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を学ぶ。①							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
10 11 12	【到達目標】 ・ 担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。						34 35 36	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を学ぶ。②							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
13 14 15	【到達目標】 ・ 担当の子どもと仲よくなれるような声かけをすることができる。 ・ 楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。						37 38 39	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を学ぶ。③							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
16 17 18	【到達目標】 ・ 担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。						40 41 42	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。					
	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
19 20 21	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。						43 44 45	【到達目標】 ・ 前期の活動を通して学んだことを活かし実践する。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをする。					
	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。							【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。					
22 23 24	【授業単元】 ・ 運動あそびの工夫と展開を行う。 ・ チームで自分達が考えた模擬保育を行う。						【成績評価の方法と基準】 こども教室のルーブリックを用いて評価する。 【小テストについて】 毎回5点満点とする。ただし15回目の小テストは10点満点とする。1～15回目の小テストの合計を40点分に換算する。 【定期試験について】 毎回4点満点とする。活動の振り返りを記述形式で実施し1～15回目の合計を60点分に換算する。 【評価について】 小テスト、定期試験の合計点からA～Fの6段階で評価する。						
	【到達目標】 ・ 指導案を作成して実践することができる。 ・ 協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・ 子どもの様子を記録することができる。 ・ 反省と振り返りをして次回の準備を行う。												
【履修に当たっての心構え・留意点】													
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員であることを認識し、思いやりと責任感を持って授業に参加する。提出期限は守ること。													

授 業 概 要

科目名	こども教室Ⅱ(らららキッズステーション)	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
こども一人ひとりの特性や発達段階を受容し、協働してより良い保育の実践力を習得する。									
【学習内容】									
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、遊びの教室、療育センターで子どもと関わっている教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ジャージ、学校指定ポロシャツ、学校指定エプロン、お道具袋 その他活動に必要な道具、pcかタブレット端末					活動担当時の指導案作成や製作物の準備をする 各年齢の発達を予習する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 2 3	【授業単元】 ・らららキッズステーションの活動内容を理解する。 ・チーム分けをして活動内容を計画する。 【到達目標】 ・自分が主活動の指導案を書く。 ・準備をする。				25 26 27	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
4 5 6	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。① 【到達目標】 ・はじめましての会を行い、自己紹介をすることができる。 ・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。				28 29 30	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
7 8 9	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を学ぶ。② 【到達目標】 ・担当の子どもと仲よくなれるような声かけをすることができる。 ・楽しく活動に参加できるように笑顔で関わる。				31 32 33	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
10 11 12	【授業単元】 運動あそびの工夫と展開を学ぶ。③ 【到達目標】 ・担当の子どもが喜び、楽しむことを見つけることができる。 ・子どもの様子を記録することができる。				34 35 36	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
13 14 15	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				37 38 39	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
16 17 18	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				40 41 42	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。			
19 20 21	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				43 44 45	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・チームで自分達が考えた模擬保育を行う。 【到達目標】 ・一年間の活動を通して学んだことを活かし実践する。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをする。			
22 23 24	【授業単元】 ・運動あそびの工夫と展開を行う。 ・模擬保育を行う。 【到達目標】 ・指導案を作成して実践することができる。 ・協力して活動を実践し楽しく参加できるように関わる。 ・子どもの様子を記録することができる。 ・反省と振り返りをして次回の準備を行う。				【成績評価の方法と基準】 こども教室のルーブリックを用いて評価する。 【小テストについて】 毎回5点満点とする。ただし15回目の小テストは10点満点とする。1～15 回目の小テストの合計を40点分に換算する。 【定期試験について】 毎回4点満点とする。活動の振り返りを記述形式で実施し1～15回目の合 計を60点分に換算する。 【評価について】 小テスト、定期試験の合計点からA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習にふさわしい身だしなみとチームの一員であることを認識し、思いやりと責任感を持って授業に参加する。提出期限は守ること。									

授業概要

科目名	ノビルバA(音楽)		必修 選択の別	選択	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	糸日谷 章子	
学科 コース	こども保育科 昼間コース		学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
音楽的な基礎知識を理解し、自身の歌唱力と表現力を豊かにする。 子どもの発達の能力を育成するための音楽的遊びを考えることができる。 保育士として必要な弾き歌いの能力を高める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が、保育士幼稚園教諭に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。授業内で関連資料を配布する。					授業で学んだ曲を反復練習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 音符の読み方 音楽Ⅰの課題練習</p> <p>【到達目標】 ノビルバ(音楽)についての説明を受け理解する。 音符の読み方を理解する。 音楽Ⅰピアノ課題を弾けるようにする。</p>				9	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 プロの演奏者の演奏を聴く</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する プロの演奏を聴き、これからの保育に必要な知識を持つ。</p>			
2	<p>【授業単元】 リズムの理解 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱</p> <p>【到達目標】 リズムについての説明を受け理解する。 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。</p>				10	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 選択課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する 選択課題の説明を受け理解する。</p>			
3	<p>【授業単元】 リズム遊び 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱</p> <p>【到達目標】 リズム遊びの説明を受け理解する。 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。</p>				11	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。</p>			
4	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解する。</p>				12	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。</p>			
5	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解する。</p>				13	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。</p>			
6	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 合奏または、合唱の課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 合奏または合唱の課題を理解して、発表する。</p>				14	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 選択課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする 選択課題の内容を決めて発表できるように取り組む。。</p>			
7	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 音楽描写課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題を弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 演奏を聴いて絵を描いて理解する。</p>				15	<p>【授業単元】 定期試験 選択課題の発表</p> <p>【到達目標】 選択課題の発表として、止まらず正しいリズム・音程でたのしく演奏をする。</p>			
8	<p>【授業単元】 音楽Ⅰの課題 季節の歌歌唱 音楽描写課題</p> <p>【到達目標】 音楽Ⅰの課題弾けるようにする。 季節の歌を歌えるように理解する。 演奏を聴いて音の流れとともに自由に絵の具などを用いて描くことを理解する。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
多くの音楽作品を知り、音楽的な表現力豊かにできるようにする。そして、いかに子どもたちが音や音楽に興味を持ち参加してたのしむことができるかを考えることが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	ノビルバA (アート)		必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	高田邦之 担当講師	
学科 コース	こども保育科		学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
様々なアート(芸術)に触れることで感性を養うとともに、一芸を身につけることで自身の強みを身につける。									
【学習内容】									
写真、イラスト、書道、演劇、落語のスペシャリストから学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 写真① オリエンテーション、フォトウォーク				9	【授業単元】 書道②			
	【到達目標】 「写真」の4回の流れを理解する。 自身のスマートフォンを使い、構図・露出・コントラスト・彩度などを理解して、ワンランク上の写真を撮影できるようになる。					【到達目標】 筆ペンや絵の具を用いた創作ハガキの作成を通して描く楽しみや贈る楽しみを知る。			
2	【授業単元】 写真② 写真発表、写真概論				10	【授業単元】 書道③			
	【到達目標】 フォトウォークで撮影した写真を発表し、他者の良い点を取り入れることができる。 写真の基礎を学び、次回のフォトウォークに活かすことができる。					【到達目標】 筆ペンや絵の具を用いた創作ハガキの作成を通して描く楽しみや贈る楽しみを知る。			
3	【授業単元】 写真③ フォトウォーク				11	【授業単元】 演劇①			
	【到達目標】 前回の授業で学んだ内容を取り入れて、写真を撮影することができる。					【到達目標】 人前で楽しく演じる力や表現する力を身につける。			
4	【授業単元】 写真④ 写真発表会、写真編集の基礎を学ぶ				12	【授業単元】 演劇②			
	【到達目標】 フォトウォークで撮影した写真を発表し、他者の良い点を取り入れることができる。 写真の編集を学び、今後の自身の撮影に繋げていくことができる。					【到達目標】 人前で楽しく演じる力や表現する力を身につける。			
5	【授業単元】 イラスト①				13	【授業単元】 落語①			
	【到達目標】 イラストの基本を学び、かっこよく描くコツを身につけて実践できるようになる。					【到達目標】 興味を惹きつけ、笑いを引き出す話のスキルを身につける。			
6	【授業単元】 イラスト②				14	【授業単元】 落語②			
	【到達目標】 イラストの基本を学び、かっこよく描くコツを身につけて実践できるようになる。					【到達目標】 興味を惹きつけ、笑いを引き出す話のスキルを身につける。			
7	【授業単元】 イラスト③				15	【授業単元】 落語③			
	【到達目標】 イラストの基本を学び、かっこよく描くコツを身につけて実践できるようになる。					【到達目標】 興味を惹きつけ、笑いを引き出す話のスキルを身につける。			
8	【授業単元】 書道①				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 筆ペンや絵の具を用いた創作ハガキの作成を通して描く楽しみや贈る楽しみを知る。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は実技で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	ノビルバB (ダンス)		必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	expg family			
学科 コース	こども保育科		学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】											
ダンスの基礎を身につけて、基盤となるアイソレーション・リズムトレーニング・基本的なステップをマスターする。											
【学習内容】											
アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ、振りつけ											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション ランニングマン、ボックス					9	【授業単元】 シェイク ロックザポート				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				
2	【授業単元】 ラコステ クラブステップ					10	【授業単元】 シャムロック ロボコップ				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				
3	【授業単元】 モネストリー ヒールアンドトゥ					11	【授業単元】 フットボール トゥループ				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				
4	【授業単元】 1回～3回のステップの復習					12	【授業単元】 9回～11回の復習				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。				
5	【授業単元】 ブレイクダウングルーヴ ゲッティングライト					13	【授業単元】 課題の振付				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップと課題の振付を理解して実践することができるようになる。				
6	【授業単元】 ブルックリン ロジャーラビット					14	【授業単元】 課題の振付				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】 学んだステップと課題の振付を理解して実践することができるようになる。				
7	【授業単元】 リーボックス チャールストン					15	【授業単元】 定期試験				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。						【到達目標】				
8	【授業単元】 5回～7回の復習					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は実技で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。										
【履修に当たっての心構え・留意点】											

授 業 概 要

科目名	ノビルバB (ダンス)	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	expg family		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ダンスの基礎を身につけて、基盤となるアイソレーション・リズムトレーニング・基本的なステップをマスターする。									
【学習内容】									
アイソレーション、リズムトレーニング、ステップ、振りつけ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 クリスクロス ドギー				9	【授業単元】 学生による自由な振付			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学生自身が振付を考えて表現ができるようになる。			
2	【授業単元】 ジゴロ ナスティ				10	【授業単元】 学生による自由な振付			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学生自身が振付を考えて表現ができるようになる。			
3	【授業単元】 ブライアンターン フォーシング				11	【授業単元】 学生による自由な振付			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学生自身が振付を考えて表現ができるようになる。			
4	【授業単元】 1回～3回のステップの復習				12	【授業単元】 振付発表			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学生自身が振付を考えて表現ができるようになる。			
5	【授業単元】 クラブステップ (インバージョン) ツイストステップ①				13	【授業単元】 課題の振付			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学んだステップと課題の振付を理解して実践することができるようになる。			
6	【授業単元】 ツイストステップ② ツイストステップ③				14	【授業単元】 課題の振付			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】 学んだステップと課題の振付を理解して実践することができるようになる。			
7	【授業単元】 ハンガー、スライド、スネイク				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 5回～7回の復習				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は実技で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 学んだステップを取り入れた振付ができるようになる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	ノビルバB (ダンス)	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	expg family		
学科 コース	こども保育科	学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
子どもに向けてダンスの楽しさを伝えることができる。									
【学習内容】									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 2	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ				17 18	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目 (構成)			
	【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
3 4	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ				19 20	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目			
	【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
5 6	【授業単元】 キッズに向けたレッスンの基礎を学ぶ				21 22	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目			
	【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
7 8	【授業単元】 あそび、曲決め				23 24	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目			
	【到達目標】 子どもが興味や関心を持つ声掛けやあそびを理解する。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
9 10	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目				25 26	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目			
	【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
11 12	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目				27 28	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン2曲目 (構成)			
	【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。					【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。			
13 14	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目				29 30	【授業単元】 ダンス発表会			
	【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。					【到達目標】			
15 16	【授業単元】 キッズレッスン開始 キッズレッスン1曲目				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は実技で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 子どもに対してダンスの指導を行い、ダンスの楽しさを伝えることができるようになる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	キャリア教育プログラムⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	八巻 佐知子		
学科コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
プロの社会人として必要な知識・技術・情報を習得し、自立した職業人になるためのスキルを高める チーム協働のためのマインドとスキルを身につける 授業・実習・就職活動を経てプロとして社会の一員となる自覚を持つ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保育士、介護福祉士の資格を有し福祉現場での経験を活かしてコミュニケーションを中心とし職業人、社会人としての基礎力を身につける授業を行う。福祉業界の動向をキャッチし考える力、問題解決力を身に付け、福祉業界を背負って立つマインドとスキルを身につける。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ipad・PC等のデバイス 実習関係物・就職関係物					実習のねらいや自己目標に沿った準備を行う (部分・責任実習の準備・指導案作成) 求人票やポータルサイトなどを活用し就職に対する準備をすすめる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 科目オリエンテーション 科目の概要・授業内容の理解・実習の準備 【到達目標】 科目の概要を理解する スケジュールの確認をしながら、実習・就職活動・卒業・就職に向けてスタートをする 個人目標を考え向かうべき道を明確にする				9	【授業単元】 チーム協働するために必要な力③ 学園祭を成功させるためには 【到達目標】 チームで学校行事に取り組むための確認し活動する 自己の役割を通して全体を見ながら行動できる			
2	【授業単元】 実習の流れを目的を確認し準備をする 【到達目標】 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの概要を理解し準備ができる 実習オリエンテーションの電話のかけ方を学ぶ 実習目標・指導案・日誌の書き方を理解し作成する				10	【授業単元】 チーム協働するために必要な力④ 学園祭を成功させるためには 【到達目標】 プロになる自覚と責任を持つ 学園祭を通して目的を持ってチームで行動することにより地域の子どもたちに貢献する			
3	【授業単元】 就職活動の進め方を学ぶ① 社会人基礎力① 自己理解 自分の現在の状況を把握する 履歴書を完成させる 【到達目標】 自己理解を深め履歴書を作成する。				11	【授業単元】 学園祭、国際教育の振り返り 【到達目標】 行事を通しての自己の成長を認め、課題を見つける			
4	【授業単元】 実習Ⅰの振り返りと次実習の準備をする 就職活動の進め方を学ぶ② 【到達目標】 次実習にあたり個人の現在の状況を理解し準備をする 実習に向かう目的、目標の再確認をする 夢への思いを持ち計画を立て行動に移すことができる				12	【授業単元】 社会人基礎力 社会におけるルールやマナーを考え再確認する 【到達目標】 社会における原理原則を再確認し社会人としての自覚を持ち行動する			
5	【授業単元】 実習Ⅰ(保育)の振り返りとまとめをする。実習Ⅰ(施設)Ⅱ・Ⅲの準備を行う 【到達目標】 実習Ⅰ(施設)Ⅱ・Ⅲに向けて自分自身の課題を明確にし実習に向かうことができる。 新たな実習の準備を整える。				13	【授業単元】 現場で働く卒業生とワークを通じて学びを深める⑤ 【到達目標】 専門の職業に対する自信と自覚を持つ			
6	【授業単元】 実習Ⅰ(施設)の振り返りとまとめ、実習Ⅱ・Ⅲの準備を行う 【到達目標】 実習Ⅱ・Ⅲに向けて自分自身の課題を明確にし実習に向かうことができる。 新たな実習の準備を整える。				14	【授業単元】 卒業に向けた準備・総まとめ 【到達目標】 ともに過ごした仲間へ感謝とエールを伝え、新たな一歩を踏み出す糧にする。年間を振り返り、今まで支えてくれた方、背中を押してくれた方への感謝の気持ちを表現する			
7	【授業単元】 チーム協働するために必要な力① 学園祭に向けて準備をする① 【到達目標】 チーム協働するために必要な力を理解し自己の役割を考え計画できる 学園祭の概要を理解し役割を決める 学園祭の目的を知りクラス目標を考え計画できる				15	【授業単元】 定期試験 2年間の振り返り 【到達目標】 2年間の総まとめ、社会人としての自信につなげる 学んだことを後期テストとして記述する			
8	【授業単元】 チーム協働するために必要な力② 学園祭の現在の状況を確認し準備をする② 実習の準備をする 【到達目標】 チームで学校行事に取り組むための確認し活動する				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	保育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	出口 加奈子		
学科 コース	こども保育科 屋間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現状と課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 保育学・発達心理学を専攻し長きにわたる保育者養成校での教員経験を有する教員が、保育の本質や目的、制度や歴史、保育の現状などについて授業を行う。 日々変わっていく保育の現況に関心を持ち、その中でも変わることのない保育の基本を踏まえ、自らの保育観を見つめ直し学んでいく。									
【使用教科書・教材・参考図書】 最新 保育原理一わかりやすく保育の本質に迫る―[第2版] 島田ミチコ 監修 上中修 編著 教育情報出版					【授業時間外における学習】 授業資料等を参考に、キーワードとなる語句や重要項目について、教科書の該当する箇所にチェックを入れながら授業前後に読んでおく。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育とは何か				9	【授業単元】 保育の計画・記録と評価			
	【到達目標】 保育の基本的な考え方を説明できる。 保育の対象としての「子ども」について「子どもと共に生活をつかっていくとは、どのようなことか」考えを述べる。					【到達目標】 保育における計画とはどのようなことか、実習等での体験を踏まえ討議する。 日々の保育を記録することの意義、次の保育につながる記録について討議する。			
2	【授業単元】 子どもを取り巻く環境の変化				10	【授業単元】 家庭援助と子育て支援			
	【到達目標】 家庭環境や社会環境の変化を読み解く資料を調べる。 そのことを踏まえ、保育ニーズの多様化について説明できる。					【到達目標】 子育て支援の背景について、複数の視点から記述する。 子育て支援における、保育所・幼稚園等のセンター的役割について説明できる。			
3	【授業単元】 世界の保育思想・保育施設の歴史				11	【授業単元】 家庭・小学校との連携			
	【到達目標】 世界の教育・保育の歴史に関する人物相関マップを作成する。 教育思想家・実践家を1人取り上げ、現代の保育にどのような影響を与えたか調べる。					【到達目標】 園と家庭との連携の必要性について、事例をもとに考えを述べる。 保幼小の連携について具体的な取り組みを調べる。			
4	【授業単元】 日本の保育思想・保育施設の歴史				12	【授業単元】 子どもの安全・虐待・障がい			
	【到達目標】 日本の保育の歴史の中で、重要な人物・法令を列記する。 保育内容の変遷を説明できる。					【到達目標】 保育の場で行われている安全教育・防災教育の重要性を説明できる。 「虐待」「配慮を要する子ども」への基本的な対応について説明できる。			
5	【授業単元】 子どもを理解するために				13	【授業単元】 保育者の専門性			
	【到達目標】 保育における「子ども理解」子どもをみる「まなざし」について、事例をもとに考えを述べる。 子ども理解を深めるための「子どもの発達の見え方」を説明できる。					【到達目標】 保育者の倫理観について「子どもの人権」「プライバシーの保護」「モデルとしての保育者」の3つの観点から説明できる。 対人援助職である保育者の専門性について説明できる。			
6	【授業単元】 保育環境とは				14	【授業単元】 保育の現状と課題			
	【到達目標】 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に記されている「環境を通して行う」とはどのようなことか説明できる。 保育における「環境」とは何か、記述することができる。					【到達目標】 幼稚園、保育所、認定こども園の違いを説明できる。そのことを踏まえ、それぞれの現状と課題を列記する。			
7	【授業単元】 保育の内容				15	【授業単元】 定期試験 これまでの振り返り 試験解説			
	【到達目標】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「ねらい、内容」「領域の考え方」について説明できる。					【到達目標】 これまでの授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ、教科書の該当項目等で確認する。			
8	【授業単元】 保育の方法・形態 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 さまざまな保育方法の基礎となる原理を、乳幼児期の特性と関係づけて説明できる。 遊びを通しての総合的な保育について具体的に説明できる。 これまでの授業を振り返り、確認項目を記述する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 自らの幼児期の体験と重ね合わせて身近な事柄として学んでいく。保育の楽しさ、難しさ、そして面白さを皆と共有していきましょう。									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山本 忠篤		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間	
【授業を通じての到達目標】									
現代社会における子ども家庭福祉の意義と、歴史的変遷について理解できる。また、子どもの人権擁護に関しても理解することができる。家庭福祉の制度や実施体系・現状、課題・動向や展望について理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当講師は長年自治体の福祉職として、学童保育、児童館、子育て支援、知的障がい者生活支援に携わり、さらに子育て支援事業の経験も有している。リカレント教育で進学した大学院でも子ども福祉を研究した。そのような経験を生かし、子ども家庭福祉とは何か、またその必要性を感じ取りながら学びとる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ③「子ども家庭福祉」中央法規					予習、復習を行うこと。虐待に関しては、自分の考えをしっかりとっておくこと。また、地域における子ども関係の施設、制度に興味をもつようにすること。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 子ども家庭福祉とは				9	【授業単元】 母子保健と子どもの健全育成			
	【到達目標】 授業の概要を理解することができる。					【到達目標】 母子保健や子どもの健全育成について理解することができる。			
2	【授業単元】 子ども家庭福祉の理念と概念				10	【授業単元】 多様な保育ニーズへの対応			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の基本について現在の社会的問題や現状を理解できるとともに、児童の最善の利益」こについて説明できる。					【到達目標】 保育施設や保育サービスについて理解できるとともに、障害児支援について説明することができる。			
3	【授業単元】 子ども家庭福祉の歴史的変遷				11	【授業単元】 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の成り立ちについて理解することができる。					【到達目標】 オレンジリボン運動の成り立ちや、子ども虐待防止、ドメスティックバイオレンスについて理解することができる。			
4	【授業単元】 現代社会と子ども家庭福祉				12	【授業単元】 障害のある子どもへの対応			
	【到達目標】 現代社会における子ども家庭福祉の概略を説明できるとともに、社旗的支援や貧困問題に対して説明することができる。					【到達目標】 障害児の福祉や支援を知るとともに、放課後デイについて理解することができる。			
5	【授業単元】 子どもの人権擁護の歴史的変遷				13	【授業単元】 少年非行と次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進			
	【到達目標】 子どもの人権擁護についての歴史的な流れを説明できるとともに、人権擁護の課題等を理解することができる。					【到達目標】 少年非行の施設と支援を理解することができる。子ども子育て支援制度を知るとともに、幼保連携の考え方を理解することができる。			
6	【授業単元】 子ども家庭福祉の制度と実施体制				14	【授業単元】 子ども家庭福祉の動向と展望			
	【到達目標】 子ども家庭福祉の法制度や行政の実施機関について理解することができる。					【到達目標】 地域の連携や協働について理解できるとともに、海外の動向についても理解することができる。			
7	【授業単元】 子ども家庭福祉の施設と専門職				15	【授業単元】 科目まとめ(評価)			
	【到達目標】 児童福祉施設の種類やそこで働く専門職、措置から契約のこについて理解することができる。					【到達目標】 子ども家庭福祉の広い知識が理解することができる。			
8	【授業単元】 少子化」と地域子育て支援 中間評価実施				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 少子高齢化についてさまざまな取り組みや子育て支援について理解することができる。 中間評価によって、今までの学びを理解することができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育の領域だけではなく、子どもの福祉全体を考える姿勢が大切である。									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭支援論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.家庭の意義とその機能について理解する 2.子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する 3.子育て家庭の支援体制について理解する 4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児者施設の福祉指導員、保育園保母、保育園園長職、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワークを中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる子ども家庭支援論 橋本真紀/鶴宏史[編著]ミネルヴァ書房					授業内で学んだことを実践又はPC及び書籍などを利用し自分なりに考え、課題を1つ以上見つける(問題意識を身につける)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 家庭支援の対象と役割				9	【授業単元】 地域の子育て家庭への支援			
	【到達目標】 家庭支援が求められる背景を理解し家庭支援の必要性を学ぶ					【到達目標】 保育所が担う地域の子育て家庭への支援、地域の親子の交流支援、その他児童福祉施設における地域の子育て家庭への支援形態及び方法を知る			
2	【授業単元】 子どもや子育て家庭の育ちと社会の変容				10	【授業単元】 保育所等を利用していない子どもを対象とした支援			
	【到達目標】 「家族」「家庭」「子育て家庭」とは何か、親になるプロセス・子どもの発達に応じて生じる子育ての葛藤や課題を学ぶ					【到達目標】 保育所等を利用していない子どもの実態を知り、地域子育て支援における子どもの育ちへの支援について事例を通して学ぶ			
3	【授業単元】 保育士が担う子ども家庭支援の基本姿勢と倫理				11	【授業単元】 社会的養護を必要とする家庭への支援			
	【到達目標】 保育指針・教育要領・保育所以外の児童福祉施設にみる家庭支援を知り、子ども家庭支援における保育士の倫理を学ぶ					【到達目標】 社会的養護を必要とする家庭の特性を知り、「施設養護」「家庭養護」「社会養護」について学ぶ			
4	【授業単元】 保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援Ⅰ				12	【授業単元】 子ども家庭支援に関する法・制度			
	【到達目標】 保育士が行う子育て支援(保育相談支援)の構造を知り、事例を通して保育相談支援の技術を学ぶ					【到達目標】 子ども家庭福祉を支える法律を学ぶ			
5	【授業単元】 保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援Ⅱ				13	【授業単元】 子ども家庭支援における社会資源との連携Ⅰ			
	【到達目標】 日常、行事、環境を活用した保育相談支援の実践を学ぶ					【到達目標】 子ども家庭支援に係る人々、機関や活動を知り、活動団体・専門機関との連携・協力とその留意点を学ぶ			
6	【授業単元】 保育所を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援Ⅰ				14	【授業単元】 子ども家庭支援における社会資源との連携Ⅱ			
	【到達目標】 特別な配慮を必要とする家庭の支援方法を学ぶ					【到達目標】 専門機関が行っている内容をグループで調べ発表する			
7	【授業単元】 保育所を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援Ⅱ				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 虐待家庭、ひとり親家庭、外国にルーツをもつ子育て家庭への支援の実態を知り、支援の方法を学ぶ					【到達目標】 試験後、試験内容についての振り返りをする			
8	【授業単元】 中テスト 1～7回目までの授業の振り返り				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 中テストの振り返り 1～7回目までの授業の振り返り								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業形態は講義であるが、グループワークを中心に行う 個々に問題意識をもって受け身ではなく能動的かつ積極的に参加してほしい									

科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。
また、試験は筆記試験で行う。
毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。

授 業 概 要

科目名	子どもの家庭支援の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	久保田 康文		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。③子育て家庭をめぐる現代社会状況と課題について理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。以上の4点を目標とする。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士としてさまざまな年代の人達の、さまざまな相談に応じ、現在教育分野・福祉分野・私設カウンセリングルームにて臨床活動を行っている講師が、子どもと関わるために、保育士として必要とされる人の発達課題や子どもを取り巻く社会的状況を理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書：必要に応じて関連資料をTeamsにアップする。					実習での関わりの中や自らの生活の中で関わる人との中で、授業内容と結びつけ考えながら生活をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・対人援助職としての保育者 【到達目標】 ・この科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・対人援助職としての心構えについて説明することができる。				9	【授業単元】 子育てを取り巻く社会的状況 【到達目標】 ・少子化・婚姻率、晩婚化、出産率といった社会状況について説明できる。			
2	【授業単元】 ・乳児・幼児期の発達 【到達目標】 ・乳児期の発達について説明することができる。 ・幼児期の発達について説明することができる。				10	【授業単元】 ライフコースと仕事・子育て 【到達目標】 ・自分自身のライフコースを作り、説明できる。 ・ライフコースの視点を活かした親の理解や支援について説明できる。			
3	【授業単元】 学童期・青年期・成人期・中年期・高齢期の発達 【到達目標】 ・学童期・青年期・成人期・中年期・高齢期のそれぞれの発達について説明できる。				11	【授業単元】 特別な配慮を要する家庭 【到達目標】 ・さまざまな特別な配慮を要する家庭について説明できる。 ・適切な養育と家庭の機能不全について説明できる。 ・逆境的小児体験の影響と保育者のセルフケアについて説明できる。			
4	【授業単元】 ゲストスピーカーとの対話 (肢体不自由の障害を持つ方が生活の中でどういった困難さがあるかを) 【到達目標】 当事者からの話を聞き、これまでの困難さ、そして今の困難さを知ることができる。 当事者からの話を聞き、保育士として果たす役割を説明できる。				12	【授業単元】 多様な家庭とその理解 【到達目標】 ・多様化する家族のありようを説明できる。 ・多様な家族や子どもに向けた支援について説明できる。			
5	【授業単元】 コラージュ療法 【到達目標】 ・ものを作ることの心理的意味を説明できる。				13	【授業単元】 子どもの生活・生育環境とその影響 【到達目標】 ・子どもの生活環境について説明できる。 ・特殊な環境で生活する子どもの身体的・心理的な影響について説明できる。			
6	【授業単元】 家族とは？ 家族・親子関係とは？ 【到達目標】 ・家族・家庭の現状と変化について説明できる。 ・家族のライフサイクル・家族システムについて説明できる。 ・ジェノグラム・多世代連鎖について説明できる。				14	【授業単元】 子どもの支援法 【到達目標】 ・保育者が身につけるべきカウンセリング知識・技法を説明することができる。			
7	【授業単元】 子育ての経験と親としての育ち 【到達目標】 ・子どもを持つ親の意識の変化や心の変化について説明できる。 ・子どもと親の心理的変化と社会状況について説明できる。				15	【授業単元】 定期テスト これまでの振り返り 【到達目標】 これまでの振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・中テスト ・こんな時どうする？ 【到達目標】 ・中テストでこれまでの内容を確認し、説明できる。 ・さまざまな事例に対して、さまざまな対処法を説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。									

授 業 概 要

科目名	子どもの理解と援助	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	金子いね		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、子ども一人一人を理解することの意義がわかり、保育における発達援助について捉えることができる。 2、子ども理解のための具体的な内容と方法を理解し、説明できる。 3、子どもの育ちを支えていく保育者の姿勢や態度の基本について考える力を身に付ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
私立幼稚園で30年以上勤務し、教頭職を経て現在に至る。保育現場では、「遊び」を大事にして子ども理解を深める研修をしてきた教員が、保育現場と学生をつなぎ、子どもを理解することの意義とその方法を実務経験を活かして授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書「子どもの理解と援助」ミネルヴァ書房					授業内容の予習復習として教科書をよく読むこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンスと「子どもの理解」の意義 【到達目標】 子ども理解を深めるために求められていると言える。				9	【授業単元】 子どもの育ちと援助 【到達目標】 3歳児、4歳児、5歳児の発達の特徴を捉え、保育者の援助のポイントを説明できる。			
	【授業単元】 子どもを取り巻く環境 【到達目標】 環境が子どもの発達や学習に及ぼす影響について説明ができる。					【授業単元】 遊びの理解と指導計画 【到達目標】 遊びの地図作りを通して、具体的な遊び内容を考えることができる。			
2	【授業単元】 子ども理解における保育者の姿勢 【到達目標】 保育者の姿勢として大事なことを説明できる。				11	【授業単元】 個と集団の育ち 【到達目標】 個と集団の育ち合うために必要なと言える。			
	【授業単元】 カウンセリングマインドに基づく子どもの理解 【到達目標】 カウンセリングマインドを身に付ける必要性を説明できる。					【授業単元】 特別なニーズのある子どもたち 【到達目標】 一人一人のよさを活かす保育について説明できる。			
3	【授業単元】 保育における観察 【到達目標】 保育中の観察の意味を説明できる。				13	【授業単元】 保育共同体の構築 【到達目標】 保育者同士の対話的関係構築に必要なと言える。			
	【授業単元】 保育における記録 【到達目標】 保育中の記録する意味を説明できる。					【授業単元】 発達の連続性と就学支援 【到達目標】 幼児教育と学校教育の違いを理解し、連携の必要性を説明できる。			
4	【授業単元】 保育カンファレンス 【到達目標】 保育カンファレンスの意味とその方法を述べる。				15	【授業単元】 定期試験 テストの解答説明と「養成校と保育現場の連携」について 【到達目標】 子どもの理解をするための内容や方法を説明することができる。			
	【授業単元】 中テスト テストの解答説明と「遊び理解」について 【到達目標】 子どもの理解には「遊び理解」が必要なことが説明できる。					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を自分に置き換えて考えて授業に臨むこと。									

授 業 概 要

科目名	子どもの保健	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 こどもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解する。 2 こどもの健康状態の把握とわかりやすい疾患の特徴を理解する。 3 こどもの健康増進や感染防御の具体的方法を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。その実務経験を活かし、子どもの成長発達の観察、健康上の問題および解決法・支援法について具体的な事例をあげながら授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
はじめて学ぶ子どもの福祉8 子どもの保健 ミネルヴァ書房 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 2018年					実習(5~7月)時、子どもの発達段階の特徴や言動を観察する 子どもに関するニュースを集める				
	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 子どもの健康と保健の意義 レッスン1子どもの保健とは レッスン2保健活動の目的・意義と実際 【到達目標】 子どもの保健を学ぶ意義について述べるができる。 ヘルスプロモーションの具体的な例を挙げることができる。 個別の保健活動、集団の保健活動について説明できる。				9	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン16子どもの疾病と保育3 レッスン17子どもの疾病と保育4 【到達目標】 子どもの急性疾患について説明できる。その対応方法を説明できる。 子どもの慢性疾患について説明できる。保育上の注意点を説明できる。 主治医や保護者との連携について述べるができる。			
2	【授業単元】 第1章 子どもの健康と保健の意義 レッスン3健康の概念と健康の指標 レッスン4地域における保健活動と子どもの虐待防止 【到達目標】 子どもの健康とは何かについて説明できる。 母子保健について、統計から我が国の特徴を説明できる。 子どもの虐待に関する基礎的な知識の学習と保育者に求められることは何かを述べるができる。				10	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン18子どもの疾病の予防と適切な対応1 レッスン19子どもの疾病の予防と適切な対応2 【到達目標】 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について述べるができる。 子どもの疾患を予防する方法について述べるができる。			
3	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン5 生物としてのヒトの成り立ち レッスン6 身体発育と保健 【到達目標】 生物としてのヒトの成り立ちについて説明できる。 子どもの身体発育と測定値の見方について説明できる。				11	【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン20子どもの心身の健康 レッスン21子どもの生活習慣や生活上の問題 【到達目標】 子どもの心の健康について、精神的発達理論や心と体の関係から課題を述べるができる。 子どもの心身症の具体的な例について説明できる。			
4	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン7生理機能の発達と保健1 レッスン8生理機能の発達と保健2 【到達目標】 子どもの生理機能、体温・呼吸・循環の測定方法について説明できる。 子どもの生理機能、体温・呼吸・循環の特徴について説明できる。 子どもの生理機能、消化機能・排泄などのしくみ及び特徴について説明できる。				12	【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン22子どもの発達障害 【到達目標】 主要な発達障害を3つあげ、その特徴を説明できる。			
5	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン9運動機能の発達と保健1 レッスン10運動機能の発達と保健2 【到達目標】 子どもの運動機能の発達の原則及び各発達段階における運動機能の特徴について説明できる。 粗大運動、微細運動の具体的な動きについて説明できる。				13	【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン23発達障害の子どもの支援 【到達目標】 障害に応じた支援について述べるができる。			
6	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン11精神機能の発達と保健1 レッスン12精神機能の発達と保健2 【到達目標】 子どもの知的機能の発達について、ピアジェの認知機能の発達理論について説明できる。 乳幼児のことばの発達について、発達段階ごとの特徴を説明できる。				14	【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン24 子ども虐待 【到達目標】 主となる子どもの虐待を4つあげることができる。その具体的な事例をあげることができる。 子ども虐待の発見方法、介入方法、予防方法を述べるができる。			
7	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン13子どもの疾病の特徴 レッスン14子どもの疾病と保育1 【到達目標】 子どもの疾病の特徴を説明できる。 子どもに特徴的な症状について説明できる。 健康状態の把握方法を知り、子どもの不調などを早期発見する意義を説明できる。				15	【授業単元】 前期振り返り 前期定期試験 【到達目標】 子どもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健/子どもの健康状態の把握と わかりやすい疾患の特徴/こどもの健康増進や感染防御、関連機関との連携の在り方についての 文章や言葉を正しく選択することができる。			
8	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン15子どもの疾病と保育2 中テスト 【到達目標】 感染症の基礎知識を得て、保育所における感染症対策について説明できる。 幼稚園・保育園で予防すべき感染症、および予防接種について説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む こどもに関するニュースに関心を持つ									

授 業 概 要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 食育の基本について理解した上で、食育を実践するための企画などを立案できる。特別な配慮が必要な子ども食事について理解できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行ってきた経験を有する。 基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新時代の保育双書 「こどもの食と栄養」					授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関することを気をつけ、正しい知識を身につける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 子どもにとって健康とは何か理解する 子どもを取り巻く食環境について理解する				9	【授業単元】 栄養素の働き③ 水溶性ビタミンとミネラル			
	【到達目標】 こどもの食生活の問題点を理解した上で、問題点を解決することができる 中食、外食についての違いについて把握し、中食、外食の問題点を述べ、改善提案をすることができる					【到達目標】 それぞれのビタミンやミネラルの働きについて理解でき、子どもの食事のバランスを整えることができる			
2	【授業単元】 食の安全性について理解する 食品添加物、遺伝子組み換え食品、トランス脂肪酸などやサプリメントについて				10	【授業単元】 栄養素の働き④食物繊維について 6つの基礎食品群 食事バランスガイドについて			
	【到達目標】 食の安全性への正しい知識を持ち、食への不安を持つ保護者へ適切な助言ができるようになる					【到達目標】 今まで学んだ栄養素についてを総合的に理解でき、栄養のバランスをとるためのツールとしての6つの基礎食品、食事バランスガイドの使った食育が行える			
3	【授業単元】 こどもの栄養状態を判定する				11	【授業単元】 食生活指針と日本人の食事摂取基準について			
	【到達目標】 こどもの栄養状態を判定するスケールについて理解し、運用できる 判定スケールを用いて、こどもの栄養状態を判定できる 栄養状態不良者に対して、栄養改善へのアプローチができる					【到達目標】 改訂食生活指針にて、現在の日本人の食生活の問題点について理解できる 食事摂取基準を理解し、それぞれの年代に応じた栄養の必要量について求めることができる			
4	【授業単元】 こどもの消化機能の発達について理解する。 こどもと大人の消化機能の違いについて把握する。				12	【授業単元】 妊娠のメカニズムと出産について 妊娠時のトラブルについて 妊婦の低栄養について			
	【到達目標】 こどもと大人の消化機能の発達の違いを理解し、その違いにより、こどもへの食に対しての配慮への対応ができる					【到達目標】 妊娠～出産について学び、-1歳からの子どもについて理解ができる -1歳の時の食事の大切さについて理解できる			
5	【授業単元】 食べ物のゆくえ 消化と吸収について 人は何のために食事をし、栄養素はどのような働きをしているのか				13	【授業単元】 乳汁栄養について理解する			
	【到達目標】 消化・吸収について理解できる 食べ物がから入って排泄されるまでの機序を理解できたうえで、子どもに食に対して対応できる					【到達目標】 母乳栄養、人工栄養の違いと特性について理解する 母乳、調整粉乳、液体ミルク、特殊ミルクについて理解でき、乳汁栄養について提案でき、状態によっての使い分けなどの提案ができる			
6	【授業単元】 人体構成を構成している栄養素について 水分の必要性について 脱水について				14	【授業単元】 授乳・離乳の支援ガイドについて			
	【到達目標】 人体を構成している成分について理解でき、人体を健康に維持するためには、どのような栄養素が必要なかを判断できる 脱水時に適切に対処できる					【到達目標】 授乳離乳の支援ガイドをもとに、妊娠時～離乳の完了までの一連の流れについて理解できる			
7	【授業単元】 栄養素の働き①エネルギー源となる栄養素について (炭水化物、たんぱく質、脂質) それぞれの栄養素の働きについて				15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ			
	【到達目標】 3大栄養素である炭水化物、たんぱく質、脂質について働きについて理解でき、栄養状態を良好に維持するために適切に判断できる					【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度をはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実践にどのように生かすのかを考える			
8	【授業単元】 栄養素の働き② ビタミンについて 脂溶性ビタミンについて 【中間テストの実施】				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 それぞれのビタミンの働きについて理解でき、子どもの食事のバランスを整えることができる 中間テストで前期の前半の理解度を図る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
前もって、教科書を読み、栄養素の名前などを予習してから授業に臨むこと。 日常生活の中で、食品に表示されている栄養成分表示などをみて、それぞれの食品には、どのような栄養素がどれくらい含まれているのかを理解すること									

授 業 概 要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 食育の基本について理解した上で、食育を実践するための企画などを立案できる。特別な配慮が必要な子ども食事について理解できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行ってきた経験を有する。基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新時代の保育双書 「こどもの食と栄養」					授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関することを気をつけ、正しい知識を身につける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 離乳食について理解する① 離乳の初期、中期 離乳を開始してよいこども状態 【到達目標】 「授乳・離乳の支援ガイド」をもとに、離乳の各時期における発達とその時期に適した食事形態などを理解でき応用できる。				9	【授業単元】 特別な配慮が必要な子どもの食について① 体調不良時の対応について 【到達目標】 便秘、下痢など子どもに起こりやすい疾病について理解し、対応ができる			
2	【授業単元】 離乳食について理解する② 離乳の後期、完了期 離乳食を行う上で配慮しなければならない食品について理解する ベビーフードについて 【到達目標】 「授乳・離乳の支援ガイド」をもとに、離乳の各時期における発達とその時期に適した食事形態などを理解でき応用できる。				10	【授業単元】 障害など特別な配慮が必要なこどもの食に対して理解する ② 【到達目標】 障害のある子どもへの食に対するアプローチができる 嚥下障害があるこどもの食、視覚障害がある子どもへの食、自閉症があるこどもへの食などを理解し実践できる 嚥下調整食を試食し、嚥下調整食の段階を理解し、現場で適切な食事形態を提案できる			
3	【授業単元】 幼児期の食事について① 幼児期の各時期の食事 幼児における間食の意義について 【到達目標】 食行動の発達とともに各時期に適した食事の内容について理解し、食事内容が適切か判断できる				11	【授業単元】 保育所における食事提供のガイドラインについて理解する① 【到達目標】 保育所における食事提供の意義が理解できる 事例を通して、保育園における「食と健康」の取り組み、「食と人間関係」に関する取り組み、「食と文化」に関する取り組みなどを理解し、実践できる 食品の安全な取り扱いについて理解し実践できる			
4	【授業単元】 幼児期の食事について ② 幼児期に起こりやすいトラブルについて 幼児の献立を作成する 【到達目標】 小児各時期に応じた献立が作成できる。こどもの食事摂取基準について理解し、運用できる 食生活指針にあわせた食事とは何か理解し、食の企画に生かすことができる 偏食や虫歯など幼児の食に関する問題に対処することができる				12	【授業単元】 保育所における食事提供のガイドラインについて理解する② 【到達目標】 給食と提供するにあたり、食品の安全な取り扱いについて理解できる 食中毒の基本的知識を理解し、安全な食事の提供ができる			
5	【授業単元】 学童期の食生活について 学童期に起こりやすい食の問題点について 【到達目標】 学童期の特有の食事 給食について理解できる 学童期の食の問題点に対応できる				13	【授業単元】 食育について① 【到達目標】 食育基本法について理解し、食育のために必要なアプローチができる 食育を実践できる企画が立案できる 行事食について企画できる 地産地消の大切さを理解し、地産地消の食育について企画する			
6	【授業単元】 アレルギーのある子どもに対して理解する 【到達目標】 アレルギーの種類について理解する アナフィラキシーショック時の対応、エビペンなどの使い方についても理解する アレルギーの生活管理策について、読み解き、実際の現場で指示書を見た時に、正確に把握できる				14	【授業単元】 食育について② 【到達目標】 食育基本法について理解し、食育のために必要なアプローチができる 食育を実践できる企画が立案できる フードロスなどの問題を食育に取り入れることができる			
7	【授業単元】 児童福祉施設における食事提供のガイドラインについて理解する 【到達目標】 児童福祉施設における食事提供の進め方が理解できる 児童福祉施設における多職種連携についての認識を深める 事例を通して、児童福祉施設における支援について理解でき、これらのことを通して、児童福祉施設における支援の企画、提案ができる				15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ 【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度をはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実践にどのように生かすのかを考える			
8	【授業単元】 児童福祉施設別の食事のあり方について 中間テスト 【到達目標】 後期前半で行った授業内容について理解し、対応できる				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育所における食事提供のガイドライン 保育所におけるアレルギー対応のガイドライン 授乳・離乳の支援ガイド 児童福祉施設における食事提供ガイド などは全文を厚生労働省HPよりダウンロードし、一読しておくこと									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(身体)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	艮居伸悟	
学科 コース	こども保育科 屋間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
保育現場における子どもの身心の発育発達に貢献できる指導者の育成をめざす								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
長年の保育現場経験にもとづく使える内容を身体を目いっぱい使って体験してもらいながら保育のなかの身体作りを自身でも考え理解していくようにすすめます								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
皆さんの身体と頭も教材 そして子どもたちにも手伝ってもらおうかも。。								
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	自己紹介			9	【授業単元】			
	【到達目標】 話す 聞いてもらう 聞いてもらうには？を考える 現場で使える遊びやつかみ				【到達目標】			
2	保育のなかの体育 体育って？			10	【授業単元】			
	【到達目標】 乳幼児からはじまる体育 体育って？ 何をしてどう育てるの？どうなってほしいの？				【到達目標】			
3	【授業単元】 マット運動跳び箱の基礎と補助			11	【授業単元】			
	【到達目標】 器具の使い方 動き こどもの動きを知り 補助を体感する				【到達目標】			
4	【授業単元】 鉄棒 ボール 身体の連動性を考える			12	【授業単元】			
	【到達目標】 鉄棒の補助 ボール遊びから連動性を考える				【到達目標】			
5	【授業単元】 鬼ごっこをしよう			13	【授業単元】			
	鬼ごっこを考える 行う 動く ご安全に！				【到達目標】			
6	リズム体操 作ってみよう			14	【授業単元】			
	【到達目標】				【到達目標】			
7	【授業単元】 リズム体操 作ってみよう 教えてみよう			15	【授業単元】			
	【到達目標】				【到達目標】			
8	【授業単元】 テスト 実技			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 学生皆さんの様子 からテストの方式は考えます							
【履修に当たっての心構え・留意点】								

授 業 概 要

科目名	乳児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	八木ゆかり		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育の現場で求められる「何をどのように行うか」などの技術だけでなく、「なぜそうするのか」「何を行うことが乳児にとっての発達援助なのか」など根拠をもって行うことの重要性を理解する。子どもの生活とあそびが豊かになるような環境を考え説明できる。個人差・月齢差を考慮した集団における具体的な配慮事項を考え述べることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児者施設の福祉指導員、保育園保育士、保育園園長職、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践を中心に習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
乳児保育演習ブック[第2版] 松本峰雄 監修 池田/才郷/土屋/堀 著 ミネルヴァ書房					授業の振り返り 日常の中で3歳未満児に関わる機会を作ったり、意識して観察する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 乳児保育とは何か				9	【授業単元】 2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容Ⅰ			
	【到達目標】 乳児保育Ⅰで学んだ内容について説明できる ・保育現場での乳児とは何か ・乳児保育の重要性について					【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる			
2	【授業単元】 6か月未満児の育ちと保育				10	【授業単元】 乳児保育における指導計画			
	【到達目標】 ①身体の育ち ②表現の育ち ③心と言葉の芽生え ①～③について説明できる					【到達目標】 期別指導計画を立てる			
3	【授業単元】 6か月未満の子どもの育ちと保育内容				11	【授業単元】 観察・記録及自己評価			
	【到達目標】 授乳の仕方・おむつ交換・布おむつと紙おむつの違い等体験から学ぶ					【到達目標】 観察・記録及び自己評価の振り返りをする			
4	【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅰ				12	【授業単元】 子どもの生活と遊び豊かになる保育環境Ⅰ			
	【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる					【到達目標】 絵本・紙芝居・おもちゃ・大型遊具を構成する環境を整えるための必要性を理解する			
5	【授業単元】 6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅱ				13	【授業単元】 子どもの生活と遊び豊かになる保育環境Ⅱ			
	【到達目標】 ①睡眠と排泄 ②離乳の開始 ③衣服と着替え 上記③において、色々な衣服を知る					【到達目標】 あそびのアイデアや製作・描画・表現あそびの導入・持続を学ぶ			
6	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅰ				14	【授業単元】 集団での生活における配慮			
	【到達目標】 ①身体の育ち ②心と言葉の育ち ①、②について説明できる					【到達目標】 ・集団の中の「一人ひとり」を大切に保育			
7	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅱ				15	【授業単元】 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて学ぶ					【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 中テストの振り返り 1～7回目までの授業の振り返り								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
3歳未満児の保育(乳児保育)について理解しようとする意識を持ち積極的に発言する									

科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。
また、試験は筆記試験で行う。
毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。

授 業 概 要

科目名	子どもの健康と安全	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。 3 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて具体的に理解する。 4 母子保健に関する施策や連携する関連機関について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。子どもの健康で安全な生活を守るための衛生環境及び安全管理、体調不良時の対応を根拠をもって示し、他職種及び家庭との連携について演習を交え授業をする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育者のための 子どもの健康と安全〔改訂版〕 創成社 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 2018年					実習(5~7月)で、保育園の保育環境や感染予防・事故予防の取り組みを見てくる				
コマ	授業計画				授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境と援助 1 子どもの健康と保育の環境 2 個別対応と集団全体の健康および安全管理 【到達目標】 望ましい保育環境とはどういふことを具体的に述べるができる。 個別対応と集団全体の健康および安全管理について説明できる。				9	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 1 感染症の集団発生の予防 2 感染症発生時と罹患後の対応① 【到達目標】 感染症の集団発生の予防について説明できる。 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。			
2	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 1 衛生管理 2 事故防止と安全管理 【到達目標】 おもな衛生管理の基準を説明できる。 施設内外の衛生管理について説明できる。 保育中に起こり得る事故を5つ以上上げることができる。その予防方法を述べるができる。				10	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 2 感染症発生時と罹患後の対応② 【到達目標】 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。 正しい手洗い方法を実演できる。			
3	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 3 危機管理 4 災害への備え 【到達目標】 災害に対しどのような備えが必要か述べるができる。 災害発生時の具体的な対応を述べるができる。 PTSDの特徴と対応方法を述べるができる。				11	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 1 保育における保健的対応の基本的考え方 【到達目標】 子どもの健康観察、発育の評価について説明できる。			
4	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応① 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。				12	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 2 3歳未満児への対応 【到達目標】 3歳未満児への対応について具体的に説明できる。 子どもの身体測定の方法および留意点について説明できる。			
5	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応② 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉・熱中症) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。 子どもの薬と投薬方法について説明できる。				13	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 3 個別的な配慮が必要な子どもへの対応 4 障害のある子どもへの対応 【到達目標】 個別的な配慮を要する子ども(慢性疾患、アレルギー疾患を持つ子ども)への対応について説明できる。 エビデンの使用方法を説明できる。 障がいのある子どもへの対応について述べるができる。			
6	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 子どもの生活と保健の実際 2. 応急手当① 子どもの事故について、発達・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(切り傷・刺し傷・打撲・骨折・捻挫)				14	【授業単元】 第6章 健康および安全管理の実施体制 1職員間の連携・協働 2保健活動の計画及び評価 3自治体との連携 4関係機関との連携 【到達目標】 子どもの健康および安全を守るために職員間の連携の必要性についての述べるができる。 厚生労働省や自治体が行っている母子保健事業の具体例を説明できる。 子どもの最善の利益のために家庭、専門機関、地域がどのように連携しているか説明できる。			
7	第3章 子どもの体調不良などへの対応 2. 応急手当② 【到達目標】 子どもの事故について、発達・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(口の中のけが・鼻出血・目のけが・虫刺され・火傷・誤飲・誤嚥) 止血法、包帯法を実演できる。				15	【授業単元】 1~14回振り返り 後期定期テスト 【到達目標】 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助/子どもの体調不良等に対する適切な対応/ 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて、学習した項目に正しく答えることができる。			
8	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 3 一次救命処置 1~8回振り返り 中テスト 【到達目標】 小児の救急蘇生の具体的な方法について説明できる。 AEDの使用方法を説明することができる。 保育の安全な環境の在り方、事故や体調不良が発生した時の対応方法について学習した項目を正しく選択することができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む こどもに関するニュースに関心を持つ									

授 業 概 要

科目名	障害児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	吉田 澄枝		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育計画の作成や援助の具体的な方法について理解できるようになる。障害児その他特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解することができる。障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解することができるようになる。									
【学習内容】									
【使用教科書・教材・参考図書】									
					【授業時間外における学習】				
					障害児（者）に関するニュースや身近な障害児（者）に関心をもつ。街中で出会った障害者に支援できるよう心がける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 障害の基礎の復習					【授業単元】			
2	【到達目標】 後期の授業の流れを理解できるようになる。 復習をとおして障害児の基本を理解できるようになる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 発達障害児の理解と援助					【授業単元】			
4	【到達目標】 発達障害児の理解ができるようになるとともに援助できるようになる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 重症心身障害児及び医療的ケア児の理解と援助					【授業単元】			
6	【到達目標】 重症心身障害児の定義が理解できるとともに、医療的ケア児の概念や援助の方法が理解できるようになる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 障害児その他特別な配慮を要する子どもの保育の実際					【授業単元】			
8	【到達目標】 合同保育、分離保育について理解することができるようになる。 指導計画および個別支援計画が書けるようになる。 職員間の連携・協働など基本的な取り組みができるようになる。					【到達目標】			
9	【授業単元】 家庭及び自治体・関係機関との連携					【授業単元】			
10	【到達目標】 保護者や家庭についての理解と支援ができるようになる。 自治体や関係機関との連携や協働ができるようになる。					【到達目標】			
11	【授業単元】 家庭及び自治体・関係機関との連携					【授業単元】			
12	【到達目標】 小学校との連携ができるようになる。					【到達目標】			
13	【授業単元】 障害児と特別な配慮を要する子どもの保育					【授業単元】			
14	【到達目標】 保健・医療、福祉・教育等の現状と課題について理解することができる。 支援の場の広がりにつながりについて、理解することができる。					【到達目標】			
15	【授業単元】 科目総括				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 授業全体が理解できるようになる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
(授業は2コマ連続で行う)									

授 業 概 要

科目名	社会的養護Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ ・施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ 					<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護に関わるソーシャルワークの方法・技術について理解する ・社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する 				
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ/中央法規					<ul style="list-style-type: none"> ・保育関係の図書資料を読み、保育に関するニュースなどから保育の動向を知る ・社会的養護に関する制度・施策・重要な用語を記録、整理しまとめる 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 子どもの権利養護				9	【授業単元】 アセスメントと個別支援計画の作成			
	【到達目標】 ・子どもの権利擁護を図るために、組織として養育者として、どのような取り組みや運営に努めればよいのか考察し、述べることができる。					【到達目標】 ・アセスメントとは何かを理解し、事例を基に自立支援計画を策定し、具体的に記入することができる。			
2	【授業単元】 社会的養護における子どもの理解について				10	【授業単元】 記録および自己評価			
	【到達目標】 ・子どもの養育や支援をするための、的確な子ども理解の仕方やアプローチについて述べるができる。					【到達目標】 ・社会的養護における記録の種類・方法・内容について説明することができる。 ・社会的養護におけるPDCAサイクルについて説明することができる。			
3	【授業単元】 社会的養護の内容(日常生活支援)				11	【授業単元】 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践			
	【到達目標】 ・日常生活支援の意味、何を支えることなのかということについて理解し、具体的に説明することができる。(衣・食・住・保健・衛生・生活リズム)					【到達目標】 ・保育の専門性についてあらためて認識し、さまざまな事例をもとに考察し、グループ討論と発表をしながら様々な視点で考察することができる。			
4	【授業単元】 社会的養護の内容(心理的支援)				12	【授業単元】 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践			
	【到達目標】 ・心理的支援の特徴を知るとともに、支援を進めるうえで『多面的にとらえる』視点をもつことができる。					【到達目標】 ・ソーシャルワークのプロセスの知識を深め、ソーシャルワークの視点でロールプレイを行うことができる。			
5	【授業単元】 社会的養護の内容(自立支援)				13	【授業単元】 社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)			
	【到達目標】 ・自立支援の基本を知り、事例をもとに様々な自立支援について理解を深め、自立支援計画票などにもふれ、個別の計画を立てる意味を述べるができる。					【到達目標】 ・基本的コミュニケーションスキルを学び、応答技法の意味と効果について述べるができる。			
6	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際①(乳児院・児童養護施設。母子生活支援施設)				14	【授業単元】 社会的養護における家庭支援			
	【到達目標】 ・施設の支援の対象、特性を確認し、1日の日課、年間の生活と援助を記述し、説明することができる。					【到達目標】 ・家庭を支援することについて考察し、どのような関係機関があり、連携することが必要か説明することができる。			
7	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際②(障害児施設等)				15	【授業単元】 今後の社会的養護の課題と展望(定期試験)授業の振り返り			
	【到達目標】 ・施設の支援の定義、利用する子どもの特徴、施設の機能・支援内容を説明することができる。					【到達目標】 ・日本の実態に即した社会的養護のあり方について調べ、説明することができる。			
8	【授業単元】 家庭養護の生活特性および実際(中テスト)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・家庭養護についての知識を深め、制度の動向を知り、チームネットワークを考察し、述べることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
意欲的に授業に臨むこと 専門用語などまとめたり、社会的養護に関する動向について調べ、保育の専門性を高めていくこと									

授 業 概 要

科目名	子育て支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	鷺千恭子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①時代の流れと共に変化する現代子育て事情を理解する。 ②保護者によく見られる年齢別育児の悩みに対する相談対応(知識・カウンセリングスキル・保護者理解)を具体的に理解する。 ③多様な支援ニーズを抱える(障害・虐待・要保護児童の家庭など)家庭支援を理解する。 ④具体的な支援方法(職員間・関係機関の連携、記録、評価)について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
25年にわたり延3万人の子育て相談・講演会を実施。現在保育園の園長・主任クラスの保育士に向けた家族支援のプロ養成をオンラインにて行っている。保育現場及び実際の保護者の悩みをどのように紐解き、解決に向けて支援しているか、具体的な手法を紹介していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
パワーポイント資料教材、官公庁統計(各白書・国民衛生の動向等)					特になし				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 昭和から平成、そして令和。時代を巡る子育て環境の変化				9	【授業単元】 親の第二のパートナー			
	【到達目標】 子育てといっても、時代と共にその様相は大きく変化をしている。時代の影響を受けながら、物理的な環境が変わり、その基盤となる価値観が変化して「今」があることを理解する。					【到達目標】 子育て支援に欠かせない存在を「第二のパートナー」という視点から捉え、乳幼児期に関わる専門職にはどのようなスキルが必要かを考える。			
2	【授業単元】 現代子育て事情(少子化・親の価値観・結婚事情・子育て費用など)				10	【授業単元】 親が抱える悩み(しつけ)と支援のための知識			
	【到達目標】 時代の流れの中でつくられてきた「今」の時代の全容を理解するために、多方面から情報を集め検証。現代の子育て事情の特徴(親の置かれている環境・価値観など)を理解する。					【到達目標】 子育ての悩みの中で多いものについてその背景理解と対応スキルについて理解する。「しつけ」は発達年齢に応じてその様相が変化。具体的な支援スキルを理解する。			
3	【授業単元】 ひとり家庭・不利家庭の実情				11	【授業単元】 親が抱える悩み(排泄の自立)と支援のための知識			
	【到達目標】 子育てに必要なリソースが何かを考え、どれかが一つでも不足すると、たちまち子育てが苦しいものになる特徴を持つものであり、それは何も特別なことではない、誰もが同じベクトル場に存在するという視点に立って理解を深める。					【到達目標】 子育ての悩みの中で多いものについて、その背景理解と対応スキルについて理解する。「トイレトレーニング」は2歳児を持つ親の悩みの中でもっとも多く、具体的なアドバイスを必要とするものであり、その方法を理解する。			
4	【授業単元】 増え続ける虐待の実態と機能不全家族				12	【授業単元】 親が抱える悩み(個性)と支援のための知識			
	【到達目標】 児童虐待防止法が制定されてから一度も減らず、むしろ増え続けている児童虐待件数の実態と背景を理解する。機能不全家族という視点に立つことで虐待のカラクリを知る。					【到達目標】 子育ての悩みの中で多いものについて、その背景理解と対応スキルについて理解する。「個性・性格」については子どもの年齢が上がるにつれて増えてくる悩みであり、親の価値観や不安が子どもの成長を妨げる要因にもなっていることを知り支援方法を理解する。			
5	【授業単元】 2歳児保育と親の幸福感				13	【授業単元】 親が抱える悩み(発達の凸凹)と支援のための知識			
	【到達目標】 「2歳児保育と親の幸福感」の日記記事を参照し、0・1・2歳の子育て支援の必要性が高まっている現状と背景を、子どもの発達に照らし合わせながら理解する。					【到達目標】 子育ての悩みの中で多いものについて、その背景理解と対応スキルについて理解する。「発達の凸凹」については近年大きくなってきており、その背景や支援サービスと課題、そして親の不安について理解する。			
6	【授業単元】 家族をつくる・親の役割と危機				14	【授業単元】 家族支援の視点を持つ			
	【到達目標】 子どもが育つために欠かせない「家族」はつくっていくもので、そのためには知識と技術が欠かせないことを念頭に、子どもが誕生し成長、自立を迎えるまでの親の役割を理解する。					【到達目標】 子育て支援とは単なる乳幼児期の育児負担を軽減するためのものではなく、子どもの人格形成を含め、将来に影響を与えることになる家族のあり方への支援であるという「家族支援の視点」の必要性について理解する。			
7	【授業単元】 子育て支援・日本と世界の比較				15	【授業単元】 子育て支援に必要な知識理解と保育士の役割についての学習習熟度を確認する			
	【到達目標】 子どもは親だけが育てるものではないという考え方は世界の共通した認識ではあるが、その支援のあり方は様々であることを知り、日本に必要な支援を考えてみる。					【到達目標】 筆記試験の実施と習熟度の確認。及び振り返りと再履修			
8	【授業単元】 子育てを支えるしくみ(関係機関ネットワークほか)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 子育てをめぐる社会インフラ(費用・人の支援・知識・価値観・地域など)を知り、それらがどのようにつながり、連携をしていくものなのか、またその中での課題について考えてみる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「情報を読み取る力」と「どうしたいか」という自分の意志が求められます。既成概念に縛られない柔軟さを大切にしてください。									

授業概要

科目名	保育実習 I (保育所)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><保育所実習の内容></p> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習 I (施設)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2.観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3.既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4.保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容> 1.施設の役割と機能 (1)施設の生活と一日の流れ (2)施設の役割と機能 2.子ども理解 (1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助やかかわり 3.養護内容・生活環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた対応 (3)子どもの活動と生活の環境 (4)健康管理、安全対策の理解 4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導 I-②	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
保育所・施設実習の意義・目的、内容を理解し、自らの実習の課題が分かる。 実習保育所・施設における、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務を守ることができる。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容が具体的に分かる。 実習事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習への課題・目標が分かる。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1. 保育所実習の意義 (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化						実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1. 施設実習の意義 (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化					
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実践演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が修得、形成されたか、自らの学びを振り返り確認する ・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、考察する ・自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない 授業内で関連資料を配付する					必要な知識・技術や専門職としての倫理観が修得されたか、テーマごとに学びの振り返りを行う				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション・学びの振り返り①				9	【授業単元】 研究発表に向けて③			
	【到達目標】 ・これまでの自らの学びを、授業や保育実習等における体験と結びつけながら振り返り、自らの学びを述べるができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けて考えを述べるができる。			
2	【授業単元】 保育実践①表現遊び活動のためのペープサートづくり				10	【授業単元】 研究発表に向けて④			
	【到達目標】 ・他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けて考えを述べるができる。			
3	【授業単元】 保育実践②行事計画案の作成				11	【授業単元】 研究発表に向けて⑤			
	【到達目標】 ・集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けて考えを述べるができる。			
4	【授業単元】 保育実践③園のパンフレットから読み取る				12	【授業単元】 研究発表に向けて⑥			
	【到達目標】 ・保育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得することができる。					【到達目標】 ・保育に関する社会的状況、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法について、自ら収集した資料を用い、解決に向けて考えを述べるができる。			
5	【授業単元】 保育実践④言語表現活動/カルタづくり				13	【授業単元】 発表／保育者としての課題を明らかにする(発表)			
	【到達目標】 ・言語表現活動を行ううえでの基本的な表現の技術を述べるができる。					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる。・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
6	【授業単元】 保育者を目指すに当たり重要な資質について				14	【授業単元】 発表／保育者としての課題を明らかにする(発表)			
	【到達目標】 ・グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し、保育者の資質の重要性について述べるができる。 ①保育士の知識や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 ②社会性、対人関係能力 ③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 ④保育や子育てに対する支援の展開					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる。・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
7	【授業単元】 研究発表に向けて①				15	【授業単元】 発表／保育者としての課題を明らかにする(発表)定期試験			
	【到達目標】 ・保育に関わる今日の社会状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容・方法等について考察し、グループワークすることができる。					【到達目標】 ・自身の修得した知識・技術等と保育に関する現代的課題より、客観的に自己課題を明確にすることができる。・他者の意見をポジティブに捉えることができる。			
8	【授業単元】 研究発表に向けて②中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・保育に関わる今日の社会状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容・方法等について考察し、グループワークすることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育士としての学びの最終段階において、習得した知識・技術を振り返り、更なる保育者としての課題を明確にする意欲をもつ。									

授 業 概 要

科目名	愛着と自立	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①愛着と自立が相互に結びついていることについて理解し、説明することができる。 ②自立支援のさまざまな方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・愛着について① 【到達目標】 ・本科目の目標・進め方について理解することができる。 ・愛着の基本的なことについて理解し、説明することができる。 ・愛着と自立の関係について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ・愛着について② 【到達目標】 ・反応性愛着障害を持つ児童たちの実際について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ・愛着について③ 【到達目標】 ・反応性愛着障害について理解し、説明することができる。 ・愛着行動について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ・愛着について④ 【到達目標】 ・実験を通じた愛着のタイプについて理解し、説明することができる。 ・愛着の再形成について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ・自立について① 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 ・自立について② 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ・自立について③ 【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その3～。					【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目6点、2回目5点、3回目6点、4回目6点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	赤ちゃんと保護者の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。									
①赤ちゃんの心理と保護者の心理それぞれを理解し、説明することができる。									
②保護者の支援を通して赤ちゃんを支援することについて理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・赤ちゃんのさまざまな能力～その1～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・本科目の目標・進め方を理解することができる。 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その1～。					【到達目標】			
2	【授業単元】 ・赤ちゃんのさまざまな能力～その2～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その2～。					【到達目標】			
3	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その1～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかに影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その1～。					【到達目標】			
4	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その2～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかに影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その2～。					【到達目標】			
5	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その3～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・児童虐待が疑われる家庭・保護者への支援について理解し、説明することができる。 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その1～。					【到達目標】			
6	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その4～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その2～。 ・赤ちゃんの出すサインを保護者がいかに読み取るかについて理解し、説明することができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 ・保護者の支援を通しての赤ちゃんの支援～技法と事例～					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育者として必要とされるカウンセリングの知識と方法について理解し、説明することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目5点、2回目6点、3回目6点、4回目6点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	障害児の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美			
学科 コース	こども保育科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間	
【授業を通じての到達目標】										
さまざまな障害についての概要を生理的側面、機能的側面、心理的側面から理解し、それぞれ必要とされる対人援助方を学ぶ。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
障害児の親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
育保育所保育指針、配布プリント					気になるこども、障害について調べる。					
コマ	授業計画			コマ	授業計画					
1	【授業単元】 視覚障害児について 小テスト5点	【到達目標】 視覚障害の体験をしてまとめ、発表しあい共有する。			9	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
2	【授業単元】 多様な障害について、障害者の話を聞く 小テスト5点	【到達目標】 子どもへの関わり方を知り発表する。			10	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
3	【授業単元】 障害児を持つ保護者の話を聞く 小テスト5点	【到達目標】 子ども、保護者への関わり方を知りまとめる。			11	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
4	【授業単元】 障害児施設で働く方の話を聞く 小テスト5点	【到達目標】 さまざまな障害のある人への関わり方と保育者としての関わりを知る。			12	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
5	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃの製作① 小テスト5点	【到達目標】 製作したものを発表する。			13	【授業単元】	【到達目標】 説明できる			
	【到達目標】					【到達目標】				
6	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃ② 小テスト5点	【到達目標】 製作したものを発表する。			14	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
7	【授業単元】 障害児の遊びと計画 小テスト10点	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。			15	【授業単元】	【到達目標】			
	【到達目標】					【到達目標】				
8	【授業単元】 振り返り 定期試験	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										

授 業 概 要

科目名	学研保育トレーニングゼミ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場で必要な専門知識、指導計画(カリキュラム)環境設定を学研の保育雑誌より知識を広げ、保育の専門性を高める ・保育雑誌をもとに保育をイメージし、保育者の役割を明確にする 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
のり・切り貼り紙台紙／あそびと環境012歳(6月号)／Paprika(春号)／ほいくあつぷ(春号)／シールのえほん/連絡帳/Gakken					<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場ですぐに役立つよう、発達年齢に応じた『遊び』の知識を増やす ・手作りおもちゃの製作やシアターなどの児童文化財を保育雑誌を参考に作る 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 形・幾何学模様				【授業単元】				
	【到達目標】 ・色の選択と配置を見ながら、のり貼りを楽しむ子どもをイメージし、保育の言葉かけを予測し、実践することができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 0・1・2歳の保育				【授業単元】				
	【到達目標】 ・012歳の興味発達について知り、教材を作成することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 シールでやってみよう かたち				【授業単元】				
	【到達目標】 ・保育現場で使用されている『シールワーク』を製作し、子どもたちへの援助と言葉かけについて予測し、実践することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 持続可能な保育				【授業単元】				
	【到達目標】 ・SDGsにまつわる問題について、子どもにとって無理のないアクションや意識付けのためのアイデアや工夫について考察し、保育実践をイメージすることができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 連絡帳の書き方				【授業単元】				
	【到達目標】 ・環境と子ども達の姿を保育雑誌をもとにイメージすることができる。 保護者に伝える記録についての専門性を高めることができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 子どもの主体性について				【授業単元】				
	【到達目標】 ・「子ども主体」と「人間関係」就職してすぐ、春の保育について考察し、保育者としての心構えを再確認することができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 保育室の環境構成①				【授業単元】				
	【到達目標】 ・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・音環境について考え、視覚支援教材を作成することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 保育室の環境構成②(定期試験)				【授業単元】				
	【到達目標】 ・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・保育者としての専門知識を深め、述べるすることができる。					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	知育研究	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・学研の総合絵本をもとに、季節にちなんだ遊び・生活について知り、子どもたちの興味を引き出す事柄についての知識を深める ・学研の総合絵本をもとに、環境・言葉・人間関係・表現・健康を通しての子どもの育ちについて知る。さらに、多様性についても考察し、保育をイメージすることができる ・法令に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連したおはなしえほんを、保育者の視点で捉えることができる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
総合絵本 はっけん! (4月号)/なんで? (4月号)/できた (9月号)/キッズサイエンス サーカスこま/がっけんのかぐくえほん (6月号)/学研のおはなしえほん プラボーさん (4月号)/たのしいきりがみあそび /Gakken					学研の総合絵本を手にとり、子どもの視点・保育者の視点に立ち、くりかえし読む				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学研総合絵本の紹介					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育につながる、子ども達の『やってみたい』を引き出す教材について知り、保育の専門性について述べるができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 きりがみあそび					【授業単元】			
	【到達目標】 ・切り紙遊びを通して、子ども達の形遊びの発展性について考察し、模擬保育することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 SDGsと保育					【授業単元】			
	【到達目標】 ・SDGsや10の姿『絵本』を通じて子どもたちに伝えることに興味を持ち、わらいに沿った『きもちに気づく、伝え合う』お話絵本の読み聞かせを模擬保育することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 自分でやりたい気持ちに寄り添う					【授業単元】			
	【到達目標】 ・2歳、3歳の子どもの生活習慣について、保育者としての配慮点を説明することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 科学絵本／なぜ					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の興味・関心を引き出す教材について研鑽し、なぜにどう応えるのか。応答的関わりについて考察し、述べるができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 みんなで(多様性)を大切に					【授業単元】			
	【到達目標】 ・学研の絵本を通し、保育の上での様々なつながりについて、述べるができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 科学的思考					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の不思議が保育のどこにあるのかを考察する。 ・サーカスこまを用いて、試行錯誤する子どもの気持ちを予測することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 学研のおはなしえほん(定期試験)					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・おはなし絵本の読み聞かせを行い、それぞれの保育のしめくりについて考察することができる。					講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	こどもとおもちゃ工作	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	関根凌子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
1子供の心身の発達や子どもを取り巻く環境等を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2造形活動を色々な造形材料を使い、色々な方向から考え応用し実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教育の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、布、木、粘土、、また、光などを使った造形活動を実践する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等、お道具袋					次回の授業課題のテーマを考えてくる。普段の生活の中で造形材料を探し制作の生活の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 幼児造形における形を捉える力をあげる1スケッチ 顔 動力についてI 絵画活動について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・動力について理解出来る。・デッサンの考え方が理解出来る。 ・スケッチから紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
2	【授業単元】 幼児造形における絵画制作 モノ版画 ドライポイント クレヨン版画				10	【授業単元】			
	【到達目標】 版画の原理について理解し、紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
3	【授業単元】 幼児造形における色々な遊び方と制作遊び フェルト 布を使った遊び 音でのおもちゃ				11	【授業単元】			
	【到達目標】 布を使った遊びについて理解出来る。フェルト素材などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
4	【授業単元】 幼児造形における色々な感触遊び ドロ粘土 紐の結び方				12	【授業単元】			
	【到達目標】 紐結びについて理解し、編み方等を理解する事が出来る。個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
5	【授業単元】 幼児造形における色々な素材を使った制作 七宝焼き 光遊び 型作り				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・七宝の制作の仕方について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。 ・光の性質が理解でき制作につなげる事が出来る					【到達目標】			
6	【授業単元】 幼児造形における五感を活かした制作 七宝焼きII 木材 木の性質や道具の使い方について				14	【授業単元】			
	【到達目標】 七宝焼きを仕上げる事が出来る。木の性質や道具の使い方を理解し、木材を使った制作の仕方について理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る。					【到達目標】			
7	【授業単元】 幼児造形における色々な媒体を使った制作遊び 光遊び スケッチブックの作成 ・定期テストの説明				15	【授業単元】			
	【到達目標】 様々な光や影について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。授業のまとめが出来る。					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期テスト 筆記テスト 動力を使った作品の制作の発表				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 紐結び方この性質や道具の使い方について理解出来る。動力について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満とし、7回目は10点満点とする。合計40点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
造形活動がしやすく汚れてもいい服装で授業を行う。準備片づけ等周囲と協力しながら自主的に行う									

授 業 概 要

科目名	世界の子どもと保育(国内研修)	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期集中	担当 教員	八巻・百瀬・水上・高田		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
海外の保育・教育や文化、こどもの現状について知り、保育や教育について新たな発見をする。 日本国内に在住する外国人から、様々な国の保育や教育について学び、日本との共通点や相違点について知る。 身の回りの観光地や日本文化を外国語(英語)で紹介したり、それを聞いて知識を広める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保育や幼児教育について見識のある職員や海外での生活経験をいかして国際理解について造詣のある職員、または海外事情に詳しい講師が学生の興味に合わせて、学習・活動を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」					参加する研修(海外・国内)に応じて、事前・事後学習を行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 国際理解教育の意義と目的を確認する。				9	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。①活動の理解と準備			
	【到達目標】 国際理解教育の意義と目的を知り、研修に対する意欲を高める。					【到達目標】 グループごとに目的を明確にし、どのようなビデオ作製をするか計画する。			
2	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。①交流の準備				10	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。②活動			
	【到達目標】 留学生とどのような活動をするか計画をたてる。					【到達目標】 現地でのビデオ撮影に取り組む。			
3	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。②交流会				11	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。③活動			
	【到達目標】 留学生と異文化交流を楽しむ。					【到達目標】 現地でのビデオ撮影に取り組む。			
4	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。③交流会				12	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。④活動			
	【到達目標】 留学生と異文化交流を楽しむ。					【到達目標】 ビデオの編集、発表の準備をする。			
5	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。④まとめと評価				13	【授業単元】 身近な観光地、文化紹介のビデオをお互いに鑑賞し、評価し合う。①			
	【到達目標】 異文化交流を通して気付いたこと、学んだことをまとめる。					【到達目標】 ビデオの発表と他のグループの作品の鑑賞をする。			
6	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。①聴講と活動				14	【授業単元】 身近な観光地、文化紹介のビデオをお互いに鑑賞し、評価し合う。②			
	【到達目標】 海外で保育や幼児教育に携わった方の話を聞き、実情を知る。					【到達目標】 ビデオの発表と他のグループの作品の鑑賞をする。			
7	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。②聴講と活動				15	【授業単元】 研修で学んだ事の振り返りをする。			
	【到達目標】 海外で保育や幼児教育に携わった方の話を聞き、実情を知る。					【到達目標】 国際理解教育の振り返りを行い、レポートにまとめる。			
8	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。③まとめと評価				【成績評価の方法と基準】 研修内容別に、レポート等の課題が出される。見たことや聞いたこと、学んだこと自分の言葉でしっかりまとめよう。評価は研修への参加の有無(出席)、活動への取り組みの様子、レポート課題の内容による。				
	【到達目標】 講演や活動を通して学んだことを発表する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
昼間部・夜間主、又は他校の学生との共同学習になることがあるので 他を受け入れ、理解しようとする努力をしよう。									

授 業 概 要

科目名	世界の子どもと保育(海外研修)		必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	八巻・百瀬・水上・高田		
学科 コース	こども保育科		学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
福祉先進国の施設や、現地の子ども、学生との交流を通して、日本の福祉・保育の問題点を理解し、国際感覚を身につける。国内で実施する場合においても、国際感覚を豊かにし、多様な視点をもって福祉・保育を考えることができる力を身につける。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
国外での研修、または国内での研修を通して、他国の文化や考え方に触れることができるよう授業を展開していく。 豊かな国際感覚を身につけるとともに、保育・福祉の現場経験をもつ職員が、学びと実践がつながるように授業を展開していく。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
各時間の授業内容に合わせて資料を準備する。					予習や復習、資料集めなどを事前に連絡する。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 国際教育プログラム⑧				
	【到達目標】 授業のスケジュール、目標、評価方法について理解する。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
2	【授業単元】 国際教育プログラム①				10	【授業単元】 国際教育プログラム⑨				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
3	【授業単元】 国際教育プログラム②				11	【授業単元】 国際教育プログラム⑩				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
4	【授業単元】 国際教育プログラム③				12	【授業単元】 国際教育プログラム⑪				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
5	【授業単元】 国際教育プログラム④				13	【授業単元】 国際教育プログラム⑫				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
6	【授業単元】 国際教育プログラム⑤				14	【授業単元】 国際教育プログラム⑬				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				
7	【授業単元】 国際教育プログラム⑥				15	【授業単元】 試験				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 これまでの学びを総括し、発表することができる。				
8	【授業単元】 国際教育プログラム⑦				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				筆記試験・レポートで60点。毎時の小テスト合計40点。 90点-100点 A評価 80点-89点 B評価 70点-79点 C評価 60点-99点 D評価 59点以下 F評価					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
○簡単な表現を覚え、話したり、書いたりする。										
○受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番が変更されることがある。										
※出席が70%に満たない場合は、E評価(特別補講を実施)										

授 業 概 要

科目名	選択音楽Ⅰ	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	糸日谷草子、 松澤友妃子、佐藤晴奈		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士を養成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
こどもうた200、続こどもうた200、今までのプリント教材					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				9	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」を歌唱し曲を覚える。 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の説明を受け、どちらかの曲の右手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				10	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の左手の説明を受け、どちらかの曲の左手を弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲を選択し、楽譜を用意する。 弾き歌いの自由曲を両手で弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				11	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の右手の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				12	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の左手の説明を受け、左手を弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから(「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」)				13	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 これまでの曲を弾きながら歌えるようにする。 学生の演奏に合わせて、歌う。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 各自、ピアノ曲の自由曲を両手で弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				14	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 弾き歌いの自由曲を選択し、楽譜を用意する。					【到達目標】 自由曲2曲を、正しいテンポ、リズムで間違えずに弾けるようにする。			
7	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				15	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。					【到達目標】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲 を発表する。			
8	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ること を目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。 点数配分 小テスト①～④各5点 ⑤10点 ⑥～⑩各5点 ⑪10点 合計(80点満点)の÷2の点数を小テストの合計点とする。 小数点以下は切り上げとする。 定期試験⑬ 60点 最終的に、小テストと定期試験の合計点をA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、左手を弾けるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に着けるために 毎回の授業を真剣に取り組み、授業時間外にもできる限り練習し、 疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決、理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	選択音楽Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分	後期	担当 教員	佐藤晴奈 松澤友妃子		
学科 コース	こども保育科 昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎を習得し、音楽的表現力をピアノを通して身につける。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
こどもうた200、プリント教材					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い課題 ①おもちゃのチャチャチャ②アイアイ③バスごっこ の中から1曲 自由曲1曲・連弾曲1曲				9	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 自由曲を選択して楽譜を用意する。					【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				10	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲の説明を受け、右手で弾けるようにする。					【到達目標】 各自決めた選択課題曲を弾き歌いで発表する。 自由曲・連弾曲を両手で弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				11	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 連弾曲を選択して楽譜を用意する。 各自決めた選択課題曲の右手、左手を弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲・連弾曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				12	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を右手で弾きながら歌えるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				13	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 自由曲の右手の説明を受け弾けるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				14	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。 自由曲の右手、左手を弾けるようにする。					【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。			
7	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				15	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲			
	【到達目標】 自由曲を両手で弾けるようにする。 連弾曲の右手の説明を受け弾けるようにする。					【到達目標】 定期テスト「自由曲」「連弾曲」を発表する。			
8	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ることを目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。				
	【到達目標】 各自決めた選択課題曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで両手で弾けるようにする。 自由曲を両手で弾けるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身につけるために 毎回の授業を真剣に取り組み、授業時間外にもできる限り練習し、					点数配分 小テスト②④⑥⑧⑩⑫各5点 ⑭10点				

授業概要

科目名	保育実習Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4.保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2.施設における支援の実際 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 (6)地域社会との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切なかかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科昼間コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切なかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					